

# LIBERDADE



リベルダーデ

リベルダーデ商工会

# A sua equipe faz o negócio. A nossa faz a cobrança.

Libere a sua equipe das preocupações com prazos e contas a receber: a Cobrança Bradesco oferece assessoria permanente, com pessoas especializadas em ajudar a sua equipe a obter cobranças mais rápidas e eficientes, através de atendimento personalizado.

Para cada necessidade específica existe uma modalidade diferente. Todas elas operam com o suporte do sistema mais moderno do mercado. São dezenas de centros de processamento de dados ligados por satélite às Agências Bradesco, garantindo cobertura em todo o País. Você pode ter mais tempo para se dedicar às vendas e a outras decisões importantes. Utilize a Cobrança Bradesco.



COBRANÇA  
**BRADESCO**  
A tecnologia faz a diferença.

## BRADESCO

Brasil maior do grupo financeiro  
Cidade de Deus - Osasco  
Tel: (011) 704-3311

 株式会社 三和銀行

サンワの駐在員事務所  
■ブラデスコ 銀行取締役 河村 太郎  
Av. Ipiranga 282, 3º andar São Paulo/SP  
Tel: (011) 257-2500 (大代表)

# Liberdade



Associação Cultural e Assistencial da Liberdade

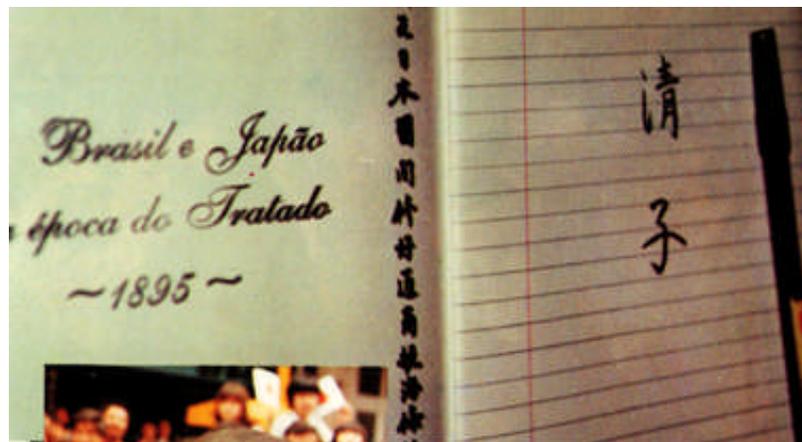
紀宮様リベルダーデーの一日





1944年当時のリベルダーテ  
(檜垣肇画)

紀宮様リベルダーテの一日



11月15日（1995年）リベルダーテに  
笑顔をふりまかれた紀宮さま

## 目次

歴代会長のプロフィール

ご挨拶

田中克之

パウロ・マルフィ

ミゲル・コラスオノ

橘富士雄

尾西貞夫

年譜～聖市東洋街の沿革

もうひとつの日本人街

街の形成・東洋街は映画館から生まれた

新聞人とリベルダーデ

私とリベルダーデ

思い出と演芸（池崎一人）

水本さんのこと（鈴木一郎）

思い出（山内淳）

中国人とリベルダーデ

座談会『昔と今』

役員名簿

会長報告

商工会歴代会長

商工会歴代会長



水本毅初代会長



尾西貞夫3代会長



田中義数親睦会会長



内田信吉2代会長

商工会会員の功労物故者

田中義数 (1906.10.22 ~ 1979.1.4)

榛葉丈児 (1920.2.20 ~ 1986.12.28)

浜崎建市 (1936.9.22 ~ 1987.1.31)

中川清人 (1918.8.9 ~ 1987.6.6)

伊藤直次郎 (1922.3.22 ~ 1987.10.17)

水本毅 (1920.1.18 ~ 1989.8.9)

内田信吉 (1915.7.26 ~ 1995.6.18)

## 記念誌刊行を祝う

在サンパウロ日本国総領事

田中 克之



リベルダーデ街の80周年並びにブラジル修好100周年事業も無事終わり、これを記念してリベルダーデ記念誌を刊行されますことを心からお慶び申し上げます。

サンパウロ市のリベルダーデ地区が日本人街の様相を呈するようになりましたのは、戦後も1960年代になってからと仄聞しております。

第二次世界大戦の終戦を契機として、日本人移住者のブラジルへの定住の意思も固まり、経済基盤が確立されるに伴って、子弟の教育面の充実をはかる目的から、多数の日系の方々が地方の移住地よりサンパウロ市やその周辺都市に移転されました。また、戦後移住も再開され、当地の日系社会に大きな活力をもたらし、リベルダーデ地区の日系商店街も活況期を迎えたのであります。特に、1969年にサンパウロ市により、特別観光地区に指定さ

れてからは、リベルダーデ地区は日曜日の東洋市の開催をはじめ、四季折々の日本文化の催し等を通して、一般ブラジル人の大きな注目を浴びるほどに発展してきております。リベルダーデでは、4月の「花祭り」、7月の「七夕祭り」、12月の「東洋祭り」と年末の「餅つき大会」の恒例行事をはじめ、各県人会との共催により「盆踊り大会」「ねぶた祭り」「蛇踊り」「竿灯祭」「鬼剣舞」等、日本の郷土色豊かな催しものを導入され、当地への日本文化紹介に大きな役割を果たしてこられておりますことに、深甚なる敬意と感謝の念を表すものであります。

今後とも、サンパウロ市における日本的な情緒を伝える街として、リベルダーデ地区がますます健全な発展を重ねられますよう祈念してやみません。

サンパウロ市市長

パウロ・マルファイ



日本とサンパウロ この両者の親愛なる関係

日本は長い歴史と古く豊かな文化をつちかい、その美しき自然と目をみはるような進歩の調和をつくりあげた数少ない国のひとつでしよう。

このハーモニーが人類に及ぼす影響は計り知れないものがあると確信しています。

私たちブラジル人は、日本はもつとも進んでいる国と、みています。

おそらく地球の反対側に位置する両国はその距離の遠さにもかかわらず、古くから深い親愛の関係をきずきあげてきています。

かつて、移民は西洋と東洋を結び付けようとする試みでした。90年前、最初の日本人移民が私たちの国を訪れました。以来、日系人の数は100万人を越す発展をとげています。その移民たちはサンパウロの街造りに大きな貢献を果たしてきました。今やサンパウロは世界有数の街に成長しています。

ブラジル人と日系人との違いはあるでしょうが、このふたつの民族の親愛なる絆は深いものがあります。

それはリベルダーデを訪れるとすぐ理解できます。この街リベルダーデが私たちに語ってくれるのはふたつの民族の深い関係です。

そして経済、科学、文化、スポーツ、政治などあらゆる分野で両国間の関係はより深まると確信しています。

移民の街サンパウロは大阪市と姉妹都市です。大阪市も平和と

ビジネスの街という顔をもっていますが、サンパウロも双子の兄弟のように似ています。

サンパウロ市は日本人移民を誇りをもつて歓迎しています。

サンパウロ市前市会議長

ミゲル・コラソオノ



オリエンタル街の発展

日伯修好100周年記念も盛大のうちを終了。将来の展望をみながらひとつのことを日系コロニアに申し上げます。

私と日系コロニアのあいだにはいつでも深い信頼感があり、私自身は尊敬の念をいだいております。

忘れもしません。10年、訪日を機にますます日本が身近なものに感じられました。多くのサンパウロの要人たちと一緒に日本の方々と親交をあたため、よきパートナー・シップを確立するよう

努力しました。

勤勉なる日系コロニアとの関係といえ、バイロ・オリエンタルの発展に寄与したものです。それは私の市長時代に始まっています。その時代、初代会長を務められた水本毅氏の大きな協力がありました。

今や、バイロ・オリエンタルはサンパウロの特徴ある観光スポットと成長し、また商業地区としてもめざましい発展をとげています。

私はこの日系コロニアの発展に心から協力したいと念じている毎日です。

## リベルダーデと私

橘富士雄



この頃は私も人並みに足弱になりリベルダーデ界隈をひろい歩くこともなくなったが、時折自動車の窓から垣間見るここらあた

りは20年前に比べて大変な変わりようだ。それに通りを流れる人の波にも顔見知りかほとんどいないし、みんな忙しそうで自動車の洪水の中を縫っている感じた。世代の移り変わりを思い知らされ、何だか一人取り残されたような寂りよう感におそわれる。いまの地下鉄リベルダー駅広場に日本の由緒ある灯籠がデンと座っていた。ところであの灯籠はどこへ行っただろう。

静かで落ち着いた下宿街であったこのあたりが、田中義数氏がシネ・ニテロイを建てた1953年前後からにわかに活気付きはじめた。

田中さんは頭の回転が速く、ユーモアに富み大変なアイデアマンであった。後年、ダンボール会社を設立したのもその一つだ。ガルボン・ブエノ街を中心にして邦人が続々と店を開き、お互いに角つき合いをやらぬために親睦会を作った、これがリベルダー商工会のはじまりだ。

初代の水本毅さんも忘れ得ない人だ。話もうまかったが説得力もあり、それに行動力があったから鬼に金棒だ。市役所との掛合いなどやらしたら天下一品だった。必ずものにするのだから、その外交上手には思わず唸った。

台湾、韓国、中国、北朝鮮の人々も、この界限に進出してきて、これらの国籍の人々との親睦調和に腐心された。地球の反対側であったの五族共和を見事やってのけたのだがら大した手腕だ。

田中さん、水本さんは南米銀行の参事、あるいは経営審議会理事として大変なお世話になった方である。

二代目は内田信吉さん。水本さん急逝のあとを受け継いで大変だった。何がにつけよく相談に來られた。誠実な人で“守成”を完うされた。

三代目がぐつと若返って戦後移住者の尾西貞夫さん。現在の会の運営の難しさは想像以上だ。店舗分布図も国籍別店数も種別も激しく変わってきている。

好漢の御健闘を心から祈るとともにリベルダーデ商工会のますますの発展を祈ってやまない。

〔付記〕 日系コロナに多大な影響を与えた橘富士雄氏は96年3月20日、心不全のため永眠されました。特別寄稿の本原稿が最後のお仕事となりました。ご冥福をお祈り致します。

尾西貞夫

ごあいさつ

リベルダーデ商工会会長

尾西 貞夫



リベルダーデ地区にお住まいの皆さまにおかれましては、お元気で過ごしのことと思います。

さて、「りべるだあで」発刊にあたりまして一言ごあいさつを申し上げます。

昨年は日伯修好通商航海条約締結100周年という節目の年でした。

たくさんの方々から日本からお祝いにかけてつけられ、東洋街にも足を運ばれたはずです。中でもわれわれが一番うれしかったのは、紀宮さまがこのリベルダーデ地区へおでましになったことでしょう。その歓迎ぶりのご周知のことでと思います。紀宮さまも大変喜んでお帰りになられたようです。

ところで、東洋街は今や内外ともに認められる街になりました。サンパウロ州内の地方都市からはもちろんのこと、他州からも多くの方々が日本の味、雰囲気求めてやって来られます。しかし、街中はお世辞にもきれいとは言えません。歩道はゴミの山のとくもありません。これではリベルダーデ地区の将来を考えるととき一抹の不安を感じずにはおれません。

そこでわたしの提案ですが、これから住民が一丸となって“チリ一つない、安心して買い物ができる美しい東洋街”を目指して努力しようではありませんか。皆さん、お一人、お一人の協力が結集されれば必ず実現するものと確信します。ぜひこの企画にご賛同ください。サンパウロ市内の名所になるような“治安の良い、清潔な東洋街”をつくりましょう。

わたしは戦後移住者の日本人ですので、ポルトガル語が得意ではありません。皆さまにはいつもご迷惑をかけっ放しで忸怩（じくじ）たる思いです。今後も精一杯、町の発展のために献身する所存ですので、より一層のご協力、ご理解のほどをよろしくお願い申し上げます。

終わりに東洋街のますますの躍進と、皆さまのますますのご多幸、ご健勝をお祈り致します。

## 年譜／聖市東洋街の沿革

1905年（明治38年）——◎12月20日、リベルダーデ区制定される。

1906年（明治39年）——◎9月24日、サンパウロ市サンベント街58に伯国邦人商業の魁（さきがけ）として、藤崎三郎助の「藤崎商会」創業。駐在員、野間貞次郎、後藤武夫、佐久間重吉、田中良作が派遣される。

1908年（明治41年）——◎6月18日、第一回日本移民791名を乗せた笠戸丸、サントス港第14埠頭に接岸。

1910年（明治43年）——◎サンパウロ市の人口が数十万前後で、ア

ウト・バスもいまだなく、馬車が悠然と市内を闊歩していたころ、日本人街の歴史が始まる。

◎サルゼーダス伯爵邸のそびえるコンデ街を中枢とする界限には、海外興業支部、藤崎商会などが居を構えていた。

◎初期日本移民がコーヒー耕地における契約コロノとして搾取と暴圧に耐えかねて出聖、多くがコンデ・デ・サルゼーダス街坂下地下階住まいをはじめ。

1913年（大正2年）——◎9月2日、在サンパウロ日本帝国総領事館業務開始。

1914年（大正3年）——◎伯国サンパウロ市における邦人旅館の先駆「上地ホテル」を上地弥蔵がボニータ街（現トーマス・デ・リマ街）に開設。無銭邦人苦学生たちの面倒も見る。

◎12月24日、村松総領事のお声がかかりで、フレイ・カネカ街の後藤武夫邸において日本倶楽部創立。

1915年（大正4年）——◎7月14日、在サンパウロ日本帝国総領事館公式に開館。

◎10月7日、コンデ・デ・サルゼーダス街38に宮崎信造を教師とする、生徒3人の大正小学校開設。これは大正3年頃からコンデ街で田頭甚四郎青年が営む寺小屋式小学校を宮崎が引き継ぐ。

1916年(大正5年)——◎1月、邦文週刊行物の草分け「南米」、  
星名謙一郎が謄写版刷りで創刊。

◎8月31日、「日伯新聞」カストロ街で金子保三郎、輪湖俊午郎が  
創刊。

1917年(大正6年)——◎8月31日、海外興業会社の機関紙として  
石黒清作代表の「伯刺西報時報」活版印刷で発刊。コングレス・フ  
ルタード街39。

1918年(大正7年)——◎10月30日、煙口九万一特命全權公使  
着任の公使館、ペトロポリナス市からリオデジヤネイロ市へ移転。

1919年(大正8年)——◎9月26日、金子保三郎「日伯新聞」總  
管が三浦巖にわたり、サンジョアキン街に移転。

1920年(大正9年)——◎2月11日、日本倶楽部第一回定期総  
会。会長・石黒清作、会計・熊坂清四郎、幹事・山田播之助、三浦巖、翁  
長助成。

◎5月13日、コングレ大正小学校においてミカド・スノー・フ  
ラフ祭足。

1922年(大正11年)——◎5月15日、小林葉登利、キリスト教  
伝導のためコングレ街坂下の大正小学校で日曜学校開設。

◎8月1日、中尾熊喜「葡語手紙の書き方」伯刺西爾時報社から出版。

◎9月7日、伯刺西爾時報社編「新進之伯刺西爾」発行。

◎11月6日、中矢熊太郎、瀬木四十逸らとともに聖市邦人商人の元祖、木藤磯右衛門死亡。

1923年（大正12年）——◎聖公会伊藤八十二牧師、サンパウロ市に宣教開始。

◎11月、石橋恒四郎「農業の友」社創立。翌年謄写版刷り「農業の友」発行。

◎11月21日、野口英世博士リオ着、25日バイアへ発つ。

1924年（大正13年）——◎2月26日、在伯日本人同仁全が29名の維持全員をもって誕生する。

◎2月29日、バイア州に滞在中の野口英世博士、聖州衛生院で黄熱病原レプトスピラに関する講演のため来聖する。石黒清作宅を不意打ちに訪問した以外、ほとんどサンパウロ市の邦人と全う機会を得ていない。

◎5月9日、常磐旅館コンデ街坂上41に開業。

◎小林美登利、サンパウロ教会創立宣言。後南米教会と改称。

1925年（大正14年）——◎7月8日、オリベイラ・ボテーリヨ、反レイス移民法案の意見書を下院財政委員会で朗読。

◎小林美登利経営の「聖州義塾」、ガルヴオン・ブエノ街85（現在

409)に開塾。英才教育の学生寮で、教師陣に村上真一郎、大原豊、木下正夫、浅見鉄之助、半田知雄。塾生二十数名で始めるも急増して、70余名を収容のため翌年末に増築する。

◎ちなみに、「ガルヴオン・ブエノ」なる街路の呼称は、18世紀ポルトガルから移住した著名なガルヴオン一家とアマドール・ブエノ家を併称して命名されたものによる。

1926年（大正15年）——◎1月1日、聖州義塾、謄写版刷一雑誌「市民」発行。

◎広田某、サン・ゴンサーロ教会で日本人初の洗礼を受ける。

◎サンパウロ市の日本人街はコンデ街からコンセイレイロ・フルタード街に伸展、さらにガルヴオン・ブエノ街を通ってファグンデス街からサン・ジョアキン街、タマンダレー街方面へと進出する。

◎8月、「農業のブラジル」の経営、佐藤常蔵に移る。

◎日本倶楽部のテニス・コート、ブルックリン・パウリスタ区に建設。

1927年（昭和2年）——◎12月11日、コチア・バタタ生産者産業組合創立。

1928年（昭和3年）——◎3月18日、リベルダーデ街149に聖フランシスコ学園開校。

◎10月、在伯日本人同仁会、社団法人として正式認可を受ける。

1929年（昭和4年）——◎ガルヴオン・ブエノ街は、20世紀初頭に建てられた伯国帝政時代を忍ばす住宅、石畳、ガス燈、街路樹などで構成されて、690番あたりに丸木橋がかかっていた。

◎2月14日、サンパウロ市にカーザ東山株式会社創立。

◎3月25日、ブラジル拓殖組合創立。

◎4月10日、リベルダーデ街146の日伯新聞社、暴漢に襲われる。

◎4月28日、サンパウロ市野球連盟誕生。

◎8月9日、総領事の中島清一郎、「在サンパウロ日本語学校父兄会」創立。

◎9月16日、三浦鑿日本倶楽部を除名される。

◎大正小学校サンジョアキン街へ移る。

◎12月24日、南伯中央農産組合創立。

1930年（昭和5年）——◎この年の初頭、ファグンデス街に高岡専太郎が診療所を構える。

◎タマングレー街に海外興業支社が移転。

◎6月、第一回慈善演芸会開催。

◎12月、ガルヴオン・ブエノ街37に在伯邦人同仁会が独立事務所を開設。

◎カシンギー菓子店開店。山羊の乳売りが往来。

◎サンジョアキン街に父兄会寄宿舎誕生。旧日伯新聞社ビル。

1931年（昭和6年）——◎1月14日、社長翁長助成、主筆

中西周甫「日本新聞」創刊。

◎3月25日、父兄会主催第一回教育研究会。57名の教師がサンジョアキン街父兄会事務所で開催。

◎4月現在の日本人小学校全伯で187校。未届け20校。生徒数平均49名。

◎護憲革命。聖市セー広場擾乱で官軍の銃撃を受けて、山田隆次医師死亡。

◎市内バス（アウト・ボンデ）路線開通。

1932年（昭和7年）——◎1月15日、在伯同胞第一回美術展、リベルダーデ街の日本倶楽部で開催。

1933年（昭和8年）——◎4月、高岡専太郎医博、コンセレイロ・フルタード街191に「互生会」を創立、機関紙「家庭と健康」を発行。

◎6月18日、日本移民渡伯25周年記念祭、日本病院敷地で挙行。式のあと日本病院定礎式。

◎日伯柔剣道連盟発足。

1934年（昭和9年）——◎1月3日、長唄二葉会第一回おさらい会。

◎4月18日、「在伯日本人文化協会」創立。古谷重綱全長、宮坂国人副会長。

◎「父兄会」が「教育普及会」と改称しガルヴオン・ブエノ街へ移転。

◎画学生檜垣肇は、当時アラメダ・ガルボオン・ブエノと称されたタマンダレー寄りの一隅に木賃宿を営む。ルース駅前留置所に家族知人を訪う奥地からの勝組邦人を泊めたのが印象深い。

◎このころから1940年にかけて、サンパウロ市の日本人街として全盛のコンデ街に中矢商店、村上歯科医、常磐旅館、金城山戸歯科医、遠藤商店。青柳亭、国井商店、渡辺銃砲店など開業。

◎7月16日、外国移民二分制限法公布。

◎8月15日、サンパウロ市のラジオ放送に15分間の日本語番組新設、

◎11月、「聖州新報」、バウル市からサンパウロ市に移転。

1935年（昭和10年）——◎サンパウロ市営中央市場、カンタレイラ街に完成。青果市場に就労する移民を主体とした新邦人集団区が形成される。

1936年（昭和11年）——◎9月23日、島崎藤村、有馬生馬、ブエノス・アイレスで開催の国際ペン・クラブ大会出席の途上来伯。

◎自由メソジスト聖市教会（牧師西住正義）、コンデ街40に設立。

1937年（昭和12年）——◎9月1日、古谷重綱講師で聖州立法科大学に日本語講座開設。

◎11月9日、（14、16日）サンパウロ市立劇場で藤原義江独

唱会。12日、大正小学校児童のため特別出演し、夜、サンジョアキン街リラ・クラブにおいて講演会。

1938年（昭和13年）——◎5月、バウルより出聖した「聖州新報」が日刊紙となる。7月、「日伯新聞」、8月に「伯刺西爾時報」が各々日刊化する。

◎日本からブラジル向けラジオ放送開始。

◎12月25日、外国語学校、主として日、独、伊の学校全面閉鎖。

1939年（昭和14年）——◎1月、日本文化研究会、サンパウロ法科大学生を中心に発足。

◎4月29日、日本病院落成式挙行。

◎国家主義激化で帰国する邦人多数。

◎11月5日、リラ・クラブにて日本音楽舞踊研究会の邦楽公演。

1940年（昭和15年）——◎8月15日、南米銀行設立。

◎8月16日、サンパウロ日本商業会議所設立。

◎9月12日、安藤全八著「ブラジル史」発行。

◎9月24日、日本病院開院式。

◎10月5日、さくら醬油操業開始。

1941年（昭和16年）——◎邦人体協サンパウロ・スポーツ連盟支部としてサンパウロ運動クラブ誕生。

◎邦字紙停刊を命ぜられる。7月末、「聖州新報」。8月31日、「伯刺西爾時報」、「日本新聞」。「ブラジル朝日」（「旧日伯新聞」）は葡語のみ残ったが12月下旬廃刊。

◎8月29日より3日間、東山球場にて戦前最後の全伯野球大会開催。

◎12月7日、リラ・クラブにて日本音楽演奏会。これ以後4年間中止。

◎12月8日、太平洋戦争始まる。

1942年（昭和17年）——◎1月28日、在サンパウロ日本帝国総領事館閉鎖。日本とブラジルは国交断絶状態に入る。

◎6月3日、渡辺マルガリーダを中心としてサンパウロ市カトリック日本人救済会誕生。（1953年に「救済会」と改称。

◎7月3日、全外交官帰朝のスウェーデン籍交換船グリブスホルム号離伯。

◎9月6日、日伯国交断絶のため、聖市最大の邦人居住区コングレ・デ・サルゼーダス街およびエスツダンテス街の日系家族立ち退き令発令。

◎9月18日、サンパウロ・スペイン総領事館内に日本人權益部を設置、森田芳一が担当。

1943年（昭和18年）——◎警察、留置所へ拘引される邦人増加。  
1945年（昭和20年）——◎6月6日、ブラジル、突如日本へ宣戦

布告。

◎池崎商会開店。

◎8月15日、日本降伏の公文書が連合国側へ到着。

1946年（昭和21年）——◎7月19日、邦人勝組数百人に対するマセード・ソアールレス執政官の説得、徒勞に終わる。

◎10月12日、「サンパウロ新聞」創刊。

1947年（昭和22年）——◎1月1日、混乱する時局認識標榜の「パウリスタ新聞」創刊。

◎海興支店長宮腰千葉太の肝入りで、母国戦災者救援会組織。

◎古谷重綱、藤田芳郎、沖永靖、太陽堂設立。北米から日本書籍を輸入。

1948年（昭和23年）——◎ツニブラ旅行社創業。

◎3月、丸山昌彦主宰のオーケストラがリベルダーデ街セントロ・プロフェッソラード（元日本倶楽部）で第一回演奏会。

◎8月15日、中央市場の同業者、葉月の友結成。

1949年（昭和24年）——◎1月1日、「日伯毎日新聞」創刊。

◎3月26日、サンパウロ学生会発足（後アルモニア学生寮を建設）。

◎7月1日、「コロニア文化振興会」活動開始。会場はイルマン・シンプリシーナ街（旧海興事務所）。会員に山本喜誉司、高岡専太郎、蜂谷

専一、安藤全八、半田知雄、鈴木梯一。

◎8月23日、太陽堂（新）創業。

1950年（昭和25年）——◎3月4日、古橋広之進、橋爪四郎水泳選手団来伯。

◎3月23日、全伯水上選手権大会で古橋400以自由型に南米新記録樹立。

◎ウニベルツール創業。

1951年（昭和26年）——◎2月27日、コラニア連絡機関創立準備委員会がサクラ・クラブにて開催。後に文化協会へと発展。

◎2月28日、戦後初の日本船、大阪商船神戸丸サントス入港。

◎6月、中央公論紙上の「現地座談会」（土曜会同人、下元健吉、山本喜誉司）、密告によるマカコ事件発生。

1952年（昭和27年）——◎不二商会開店。

◎8月1日、トレス友の会、マカコ問題の釈明文発表および、この件落着。

◎9月29日、戦後初代大使君塚慎着任。

1953年（昭和28年）——◎7月14日、丸一醸造創業。

◎7月、ニテロイ・ビル落成。映画館、ホテル、ホール、大食堂完備。

◎日本企業の対伯進出盛んになる。

1954年（昭和29年）——◎1月15日、パイロット創業。

◎1月25日、聖市四百年祭一山本喜誉司ら日本人協会設立。

◎1月、日本海外移住協会連合会設立。

◎5月30日、イビラプエラ日本館上棟式挙行。8月31日竣

工。

◎ニテロイ菓子店、杉尾、旭食堂、シャー・フローラ、ナニワ、

西谷（後の水本）、木村、池田、宮川、有川、内田、江口各商店創業。

1955年（昭和30年）——◎1月、桜組挺身隊、母国引揚げ運動で

サンパウロ市街頭デモ行進断行。

◎緒方薬局創業。

◎9月、コチア青年移民第一陣109名が移住。

1956年（昭和31年）——◎6月9日、建設省産業開発青年隊第一

陣着伯。

◎7月9日、サンパウロ日本文化協会、リベルダーデ大通り

へ移転。

◎8月1日、アジノモト・ド・ブラジル設立。

1957年（昭和32年）——◎日本各業界が対伯進出、盛況呈す。

◎7月4日、ブラデスコ、プラッサ・リベルダーデ支店開店。

1958年（昭和33年）——◎4月10日、日本文化センター建設予

定地、聖市サンジョアキン街大正小学校敷地2700平方メートルの移転調印。

◎6月18日、移民50年祭挙行。ガルヴオン・ブエノ街に三笠宮殿下歓迎アーチ設置。

1959年（昭和34年）——◎7月、トヨタ、バンデランテス（シャーシー）製造。

◎8月7日、ブラジル松竹創立。直営映画館シネ・ニッポン。

◎シネ東京消える。

◎10月、ガルヴオン・ブエノ街初のクラブ銀座、コロンバンのバーテン以下数名と30余名の二世グループが大乱闘。このころより「愚連隊」の文字が葡語紙面を賑わす。

1960年（昭和35年）——◎1月、佐藤旅館開業。10月、文化センター建設委員会発足。

1961年（昭和36年）——◎料亭えのもと開業。

1962年（昭和37年）——◎カルヴオン・ブエノ街の渡辺家母娘三人殺傷事件起きる。

1963年（昭和38年）——◎6月、ジョン・メンデス広場のサン・ゴンサロ教会、武内重雄神父の管理となる。

◎2月4日、南米銀行ガルヴオン・ブエノ支店進出。

1964年（昭和39年）——◎こけし食堂、みつぼし宝石店創業。

◎4月21日、文化センター落成式。

◎9月、ガルヴオン・ブエノ街とアメリカ・デ・カンポス街

にて二十数名の二世集団による暴力沙汰起こる。

1965年（昭和40年）——◎リベルダーデ区日系商店の親睦会発足。  
田中義数全長に就任。

◎第一回親睦会主催の運動会挙行。

1966年（昭和41年）——◎ヤクルト、サンベルナルド市に操業。

◎在伯日本都道府県入会連合会、33団体をもって発足。

◎日本から芸能人訪伯ブーム続く。

◎11月、朝日商会創業。

◎12月、大正小学校閉校。

1967年（昭和42年）——◎5月22日、皇太子御夫妻ブラジリア着。25日、サシパウロ、パカエンブー競技場で歓迎大全。26日、リオへ。

1968年（昭和43年）——◎ヤクルト、乳酸菌飲料販売開始。

◎5月28日、リベルダーデ地区の地下鉄南北線建設により、立ち退き店舗多数。

◎著名な政治家ディオゴ・フェイジョーの銅像と、市制四百年祭記念に日本政府贈呈の石灯籠が地下鉄工事のためリベルダーデ広場から撤去。

◎6月18日、日本移民60年祭挙行。

◎9月7日、サンパウロ日本文化協会は日伯文化協会と改名。

◎10月12日、高速道路建設のため、ついに「ニテロイ」閉鎖。

◎大阪橋の開通式でマルフ市長、リベルダーデ区が東洋街としての発展を望む。

◎11月15日の地方選挙の結果、多数の日系市長・副市長が誕生。

◎コロニア文芸賞『移植』（川原奈美）

1969年（昭和44年）——◎4月、小篠マーリオ市議、サンパウロ市・大阪市間姉妹都市協約を提唱。

◎該区を「リトル東京」とする構想、6月に市観光局が採用。

◎5月、移住者渡航費全額免除となる。（約60万円）

◎6月18日、土肥隆三医学博士、日系初のコスタ・アルヴアレンガ賞受賞。

6月20日、サンパウロ大学日本文化研究所開所式。

◎10月、サンパウロ市・大阪市間の姉妹都市協約締結。

◎11月27日、第一回東洋祭りの盆踊り大会を、リベルダーデ広場（当時は樹木の多い公園）で開催。

◎コロニア文学賞佳作『井戸』（高野耕声）

1970年（昭和45年）——◎11月、ガルヴオン・ブエノ街陸橋、「大阪橋」と命名。

◎12月12日、第11軍団ラーラ大佐らと防犯対策協議。

◎12月、水本毅親睦会副会長、日本より柳の枝1000本を持参、ガルヴオン・ブエノ街の一部を飾る。

◎第一回年末街頭装飾の実施。

◎コロニア文学賞『朝の予感』（醍醐麻沙夫）

1971年（昭和46年）——◎2月1日、日本大使館リオからブラジ

リアへ移転。

◎3月30日、明石屋宝石店コンデ街に開店。

◎6月、ガルヴオン・ブエノ街事件の服役者3名を国外追放処分。

◎7月6日、サンパウロ・大阪市姉妹都市となる。

◎7月19日、新制作座一行22人来聖。

◎10月4日、南米銀行新本店落成。

◎半田知雄「移民の歴史」で70年文協コロンビア文学賞受賞。

1972年（昭和47年）——◎4月14日、ブラジル独立150年祭  
日系協力委員会発足。

◎6月21日、日本移民援護協会が「サンパウロ日伯援護協会」と  
名称変更。

◎8月31日、親睦会が保安局幹部を柄柏、ガルヴオン・ブエノ  
街の防犯対策を陳情。

◎富士パラセ（旧大阪パラセ）創業。

◎11月15日、地方選挙で日系市長13名、副市長14名、市  
議137名誕生。サンパウロ市は21人中2人の市議。

◎12月16日、リベルダーデ親睦会主催の盆踊り大全。

◎コロンビア文学賞『香山六郎回想録』（香山六郎）

1973年（昭和48年）——◎初頭、ガルヴオン・ブエノ街の日本庭  
園造成に着手。

◎鳥居、舗道の模様意匠およびリベルダーデ音頭を公募。

◎鈴蘭灯常設。歳末の区別対抗街頭装飾コンクール東洋街優勝。

◎花の市常設計画。

◎3月27日、最後の移民船「につぼん丸」、285名の移住者を乗せサントス入港。

◎6月12日、移民史料館建設委員会発足。

◎7月、コンセイレイロ・フルタード街陸橋を「上塚周平橋」と命名。

◎9月28日、リベルダーデ親睦会、日系ボアッテ29軒と発表。

◎11月、グローリア街陸橋を「三重県橋」と命名。

◎12月15日、ガルヴオン・ブエノ街の踊り大会にコラスオノ市長臨席。

◎コロナア文学賞『トマテとコンピューター』（前山隆）

1974年（昭和49年）——◎1月28日、「リベルダーデ商工会」創立。全長に水本毅。

◎6月15日、明石屋宝石店、コンデ街からガルヴオン・ブエノ街へ移転。

◎6月、バメリンドス、プラッサ・デ・リベルダーデ支店開店。

◎11月16日、アジノモト・インテル・アメリカーナ設立。

◎11月、東洋街第一期工事終了。

◎美仁着物、大仏堂ブラジル支店創業。

◎コロナア文学賞佳作『断絶』（則近正義）『せせらぎ』（長田三千枝

）  
1975年（昭和50年）——◎6月18日、日本移民67年祭のおり、

セツバル市長東洋区初訪問。東洋街第二期工事完成の鈴蘭灯に点灯。

◎商工会の会員240名に達す。

◎地下鉄リベルダーデ駅完成。

◎駅前広場の日曜日（東洋市）開設。

◎リベルダーデ・ショッピング・センター建設構想の検討。

◎ロータリー・クラブ・リベルダーデ支部発足。支部長・水本

毅、副・鎌田三郎、書記・田中パウロ、池崎博文。

◎コロナア文学賞『潤一郎、精二とその弟妹』（林伊勢）『流亡』

（山野千枝子）

1976年（昭和51年）——◎4月8日、伯国仏教連盟と共催の花まつり挙行。

◎5月3日、在伯都道府県入会創立10周年記念「忠臣蔵」公演。

◎8月、伯国親善訪問中の海上自衛隊、ガルヴオン・ブエノ街を表敬行進。

◎トーマス・ゴンザーガ街の数店舗が率先し、「味の街・すずらん通り」と命名。

◎9月26日、東洋市開設一周年記念サービス・デー。

◎11月4日、ヤマハ・オートバイCG125製造開始。

◎12月31日、第一回餅つき大会。NHKの「行く年来る年」で

放映。

◎コロナア文学賞『海の見える街』（福村琳）

1977年(昭和52年)——◎コロナ文学賞『遠い日々のこと』(清谷益次)

1978年(昭和53年)——◎6月18日、リベルダーデ広場でラジオ体操開始。

1979年(昭和54年)——◎5月、サンヨー・テックス創業。

◎6月、第一回七夕祭一挙行。

◎コロナ文学賞佳作『四人の老婆』(河井美津子)

1980年(昭和55年)——◎8月20日、第一回海外日系商店街親善交流派遣団、メキシコおよび北米各地を訪問。

◎コロナ文学賞佳作『アマゾン河に生きる』(岩田喜美枝)

1981年(昭和56年)——◎第二回海外日系商店街親善交流派遣団、ペルー、ボリビア、アルゼンチン、パラグアイを訪問。

日系パラセ・ホテル創業。

◎コロナ文芸賞『コロナ万葉集』『ブラジル季寄せ』(梶本北眠)

1982年(昭和57年)——◎11月、ジュリオ新井、遠藤平八郎氏等によりリベルダーデ・ライオンズ・クラブ創立。

◎コロナ文芸賞佳作『篁』(河村裁太郎)

1983年(昭和58年)——◎1月3日、水本商工会会長、東洋文化センター会館建設構想を発表。商工会と対抗する花卉業者組合が聖市へ敷地の貸与申請を譲歩。

◎コロナ文芸賞武本由夫(コロナ文芸振興に貢献)

1984年（昭和59年）——◎8月、キッコーマン商工設立。

◎コロニア文芸賞『スザノ第三』（横田恭平）

1985年（昭和60年）——◎キッコーマン販売開始。

◎コロニア文芸賞佳作『古猿録』（河井武夫）『ブラジル全史』（佐藤常蔵）

1986年（昭和61年）——◎8月27日、リベルダーデ区代表緒方イネス嬢、ミス・コロニア・コンクールで女王に当選。

◎コロニア文芸賞『指輪』『ふるさとに帰る日』（宮島右近）

1987年（昭和62年）——◎9月、アルファインテル南米交流創業。

◎12月5日、東洋祭りにペトロポリス市ドイツ系舞踊団参加。

◎12月13日、市内リベリダーデ大通り363番において、東洋文化センター全館建設定礎式挙行。聖市所有の当敷地は、商工会会長水本毅の奔走で松田セルソ聖市配給局長、ヴィットル・ダビー行政区局長を通し、ジャニオ・クワドロス市長に働きかけた譲渡要請が奏功したもので、総面積300平方メートルを公共利用を条件に向こう99年間無償貸与される。

◎コロニア文芸賞『きづな』（滝井民康）『闇の文学』（滝野三碧）

1988年（昭和63年）——◎5月10日、東洋文化センター会館建設起工式。

◎会館建設の施工はエンジン建設有限会社が出血受注を申し出て、一階建設面積301、45平方メートル、二階286、74平方メートル建ての総建坪588、19平方メートルで、総工費約20万ドルというもの。

◎6月12日、文学博士鈴木一郎（「だれも書かなかったブラジル」の著者）は、全館建設費の一部に充当されたしとして、リベルダーデ・ロータリー・クラブと姉妹関係にある湯河原ロータリー・クラブ会員仲間および全国の友人に協力を呼びかけて集めた165万円を寄贈する。

◎6月18日、日伯友好病院完成。

◎7月27日、南米銀行、東洋文化センター会館へ500万クルザードス寄贈。

◎なお、これまでの建設資金協力者は、マリリア市の笹崎工業をはじめ、リベルコン・グループ以下、100余名に上っている。

◎コロナ文芸賞『桂山句文集』（栢野桂山）

1989年（昭和64年、平成1年）――

◎1月5日、日本棋院南米センター完成。

◎1月16日、太陽堂・村上常務事故死

◎1月17日、保健衛生大臣に続敢剛教授就任。

◎1月21日、救済会ホーム建設スタート。

◎1月22日、セ広場でラジオ体操大会。

◎2月24日、昭和天皇「大喪の令」実況中継。コロナ代表「大喪の令」に参列（尾身倍一文協会会長ら10人）

◎3月8日、リベルダーデ商工会、セー区職員招待。

◎3月22日、日本移民80年史編纂スタート。

◎3月22日、サンパウロ日伯援護協会竹中正会長再選。

◎4月1日、ブラジル文化協会（第93回文協評議会）尾身

倍一を再選。

◎4月8日、花祭り。

◎4月20日、日伯援護協会竹中正全長にブラジル政府は、オランダ・グラウ・オフィシャル・リオ・ブランコ章を授与。

◎6月2日、日本航空、サンパウロ東京直通便運行開始。

◎6月3日、東洋文化センター完成。

◎7月15日、16日、七夕祭り。

◎8月9日、リベルダーデ商工会会長・水本毅、腎不全のためアインシュタイン病院にて永眠。リベルダーデ商工会会館（東洋文化センター）建設は最後の激務となった。

◎8月20日、リベルダーデ商工会臨時役員会開催。故・水本毅会長のよきパートナーを務めた内田信吉副会長が新会長に選出。副会長に網野弥太郎、池崎博文、尾西貞夫の3名が就任。

◎8月23日、海上自衛隊練習艦隊サントス港上陸。

◎9月20日、笠戸丸移民、児玉良一永眠。

◎12月8日、東洋祭り。

◎12月31日、餅つき。

◎コロナ文芸賞『ブラジルと50年』（山本勝造）

1990年（平成2年）——◎1月24日、サンパウロ総領事館にて丸山総領事より、日本政府勲五等双光旭日章、故・水本毅初代リベルダーデ商工会会長に受勲。すみ子未亡人、謝意とともに受く。

◎1月24日、コーロル次期大統領訪日。両陛下とご歓談。

◎ 3月15日、コーロル大統領就任。竹下元総理、特派大使として出席。銀行預金18か月封鎖の新経済政策実施。

◎ 4月23日、薬師寺菅長・高田好胤文化センターで講話。

◎ 4月、サンパウロ総領事館、訪日ビザ3か月で1万突破、史上最高と発表。

◎ 6月8日、大相撲ブラジル巡業。代表・二子山理事長。横綱・千代の富士をはじめ2横綱、4大関サンパウロ入り。9日、10日、イビラプエラ体育館で巡業公演。お相撲さん着流し、ちよんまげ姿でリベルダーデに行く。

◎ 6月10日、ペルー、世界初の日系人大統領アルベルト藤森を選出。

◎ 6月13日、サンパウロ州・東京都友好協定結ぶ。鈴木俊一都知事ハンディランテス宮殿で調印。

6月、サンパウロ人文研究所（山本勝造理事長）は、ブラジルの日系人122万人以上。三世は全体の41%、四世の6割は混血。日系意識は稀薄化と発表。

◎ 6月14日、リベルダーデで東北・北海道祭り開催。秋田県の竿灯初披露。

◎ 6月18日、移民80周年を祝う。セー大寺院で慰霊ミサ。文化センター記念講堂で仏式追悼法要。

◎ 8月1日ブラジル日系旅行社協会設立。32社集合。初代会長・本永群起就任。

◎ 日本語普及センター落成。

◎9月13日、日伯援護協会1990年度外務大臣表彰を受く。  
◎9月15日、オペラ歌手・岡村喬生、秋山恵美子、文化センターで公演。荒城の月を絶唱。

◎9月25日、リベルダーデ商工全役員改選。全長・内田信吉、第一副会長・尾西貞夫、第二副会長・池崎博文、第三副会長・矢沢年員。会員数200に達する。

◎10月12日、南米銀行50周年記念事業として式典および第三本館の定礎式を行う。

◎10月18日、野村丈吾、上野アントニオなど日系連邦下院議員7人の当選。

◎10月25日、リベルダーデ商工会、安心して道を歩けるよう警察に治安改善に関する嘆願書を提出。

◎11月5日、民間大使としてふるさと創世事業団（大原毅团长）以下249人訪日。

◎11月12日、平成天皇陛下即位。文協会長・尾身倍一参列。

◎11月13日、文協で即位祝賀会、サンパウロ総領事公邸で記念パーティー。

◎12月キツコーマン自社販売（ビラ・マリアーナに新事務所）

◎12月31日、餅つき大会。次期州知事フレウリ、ロメウ・ツーマ連邦警察総監など参加。NHK紅白歌合戦に同時中継される。

◎コロナ文芸賞『うつろ舟』（松井太郎）

1991年（平成3年）——◎1月18日、19日。棋聖第1局サンパ

ウロ対局。小林光一棋聖対加藤正夫九段で争われる。加藤九段1目半勝ち。

◎3月、日本出稼ぎますます盛ん。

◎3月3、4日、文楽（人形浄瑠璃）初公演。

◎3月7日、南米銀行は吉田揚助経審会長、伝田耕平社長、倉持紀副社長の新体制に。

◎3月11日、カリフォルニア米ブラジルに上陸。

◎3月、日本車の上陸盛ん。

◎3月21日、援護協会会長に竹中正を9選。

◎4月13日、山内淳文協会会長就任。

◎6月20日、リベルダーデ商工会、州観光局長官に観光地にふさわしい街リベルダーデになるよう整備計画を陳情。

◎8月24日、日本文化研究所の修理工時完了。

◎9月10日、尾西貞夫リベルダーデ商工会会長就任（定款により内田信吉就任）。

◎6月28日、リベルダーデ広場で“水前寺清子特別公演”。

◎10月4日、リベルダーデ商工会は日系4団体へ3000ドル寄付。寄贈した3000ドルは同商工会が催した水前寺清子特別公演で得た純益の一部。

◎10月26日、文協35周年を祝つ。

◎10月26日、東山、キリンビール販売開始。

◎11月16日、サンパウロ新聞社会長・水本光任永眠（76歳）。

◎12月4日、リベルダーデ地区治安対策委員会（会長・山内淳）は、

ポリス・ボックス設置について会議。

◎12月14日、東洋祭り。エルンジーナ市長を迎える。中国・韓国初参加。

◎コロナ文芸賞『パンタナール』（中隅哲郎）

1992年（平成4年）——◎4月4日、ポリス・ボックス東洋街に4個お目見え。

◎4月7日、市役所の要請によりリベルダーデ商工会、コレラ説明会を東洋文化会館で行う。

◎5月5日（3月3日の雛祭り、5月5日の子供の日がサンパウロ市の公式行事に決まる）商工会では大阪橋で鯉幟を揚げ、祝う。

◎5月、バメリンド、アベニータ・リベルダーデ575に開店。

◎6月5日、リオ・デ・ジャネイロ・セントロ国際会議場で地球サミット開催（178か国参加）。竹下元総理ジャパンデイに出席。

7月、ホンダ、アコード販売開始。

◎7月28日、リベルダーデ商工会（尾西貞夫全長）と浅草商店連合会（飯村茂理事長）の姉妹提携調印式が浅草公民館で行われる。

◎9月29日、コーロル大統領、背任罪で弾劾案提出される。賛成441、反対38で弾劾裁判成立。副大統領イクマル・フランコ大統領就任。

◎10月、トヨタ自動車輸入開始。

◎11月20日、リベルダーデ商工全役員改選。会長・尾西貞夫、第一副会長・池崎博文、第二副会長・矢沢年員。第三副会長・尾上一男。

◎12月12日、リベルダーデ商工会主催第22回東洋祭りに畑正憲、文化センターで講演。

◎コロナ文芸賞『ブラジル外国移民の研究』（田尻鉄也）

1993年（平成5年）——◎3月27日、ブラジル日本文化協会（山内淳）主催、第3回日系団体代表者会議開催。

◎5月11日サンパウロ市生食規制法発効により、すし、さしみの販売禁止。リベルダーデ商工会は市配給局内海局長と会見、通達取り消しを要求。

◎5月19日、コレラ騒動による日本レストランの信用回復と日本料理普及のためリベルダーデ商工会会長尾西貞夫の斡旋により料理店主達の会合がもたれ、この日総会により日本料理店協会として正式に発足。会長・池田優、第一副会長・天野武士、第二副会長・氏家保一、第三副会長・水村博親。

◎5月23日、サンパウロ市、生食規制法通達解除。

◎5月26日、リベルダーデ商工会の要請により、大鳥居、鈴蘭灯、大阪橋改修工事始まる。

◎6月9日、皇太子ご結婚。総領事館で祝賀記帳。

◎8月18日、海上自衛隊練習艦隊サントス入港。

◎8月19日、イピランガ独立記念碑に献花。

◎9月13日、尾身倍一ブラジル日本文化協会名誉会長にサンパ

ウロ名誉市民章贈呈される。

◎9月26日リベルダーデ商工会はこの街の美化運動を強化。

1994年（平成6年）——◎5月17日、日伯修好100周年記念事業サンパウロ組織委員会長に橘富士雄決まる。

◎6月29日、リベルダーデ商工会、サンパウロ日本文化協会共催の立川談志落語会が、文協大講堂で開催。

（尾西商工会会長の寂しいお年寄りに笑いをがテーマ）

◎7月1日、イタマル大統領によるレアル・プラン、スタート。商店街の動き不活発。

◎リベルダーデ治安対策会議（池崎博文会長）第11連警代表を迎え、交番に警官常駐を要請。

◎9月、コチア産業組合（下本慶郎会長）67年の歴史に幕。

◎10月28日、南米被爆者巡回医師団来伯。

◎11月7日、国外就労者情報援護センター業務開始。

◎11月15日、「東山」創立60周年記念地酒キャンペーン。

◎11月21日、リベルダーデ商工会・尾西会長再選。第一副会長・尾上一男、第二副会長・矢沢年数、第三副会長・パウロ水本。

◎11月28日、世界のシンセサイザー奏者と知られる喜多郎来伯。

◎12月10日、東洋祭りに仮装行列登場。

◎12月16日、ショッピング「八幡屋」が開店。

◎コロナア文芸賞年間特別賞『ブラジル文学小史』（田畑三郎）

1995年（平成7年）——◎1月1日、フェルナンド・エンリケ・カルドーン新大統領就任演説。レアル・プラン続行、国民に協力を要請。

◎1月26日、老人クラブ福祉センター用地リベルダーデ地区に購入。

◎1月、アジノモト・インテルアメリカーナとなる。

◎阪神大震災に各団体義損金続々。

◎3月16日、リベルダーデ商工会ごみ不法投棄取締強化。罰金請求への動き。

◎4月、日伯修好100周年記念事業続々。劇団「SEI」ポルトガル語で各地巡演。

◎6月21日、リベルダーデ商工会初代全長・故水本毅の胸像、リベルダーデ広場にロータリークラブにより建立。

◎6月29日、南銀、文化福祉団体に5万レアル寄付。

◎7月20日、1905年12月20日に聖市リベルダーデ区が制定され、この日を記念してサンパウロ市は12月20日をリベルダーデの日と、この日決定。

◎8月1日、皇太子様、日伯修好100周年祭名誉総裁に就任。

◎8月10日、リベルダーデ商工会は、商工会が集めた寄付目録を「サンパウロ州連帯の社会」基金のリラ・コーバス会長に手渡す。

◎8月22日、山本勝造永眠。

◎8月24日、聖市議会リベルダーデ整備案可決。

◎9月20日、日伯修好100周年サンパウロ日系協力委員会に各自動車メーカーから基金集めのための寄贈車が出揃う。

三菱IIギャランES、フォルクス・ワーゲンIIゴルフ1000、フォードIIパンパ1.8GL、トヨタIIカムリXLE、ホンダIIアコード4DLX、ニッサンIIセントラGSX。

◎9月21日リベルダーデの都市再開発計画承認の調印がマル

ファイ市長によって調印。

◎10月4日、日伯修好100周年を記念して「きもの使節団」来伯。リベルダーデを行進。

◎10月12日、子供の日に“ミニ運動会”をリベルダーデ広場で開催。  
◎11月、エスペランサ婦人会会長・水本すみ子（故水本毅夫人）日本政府より勲五等瑞褒章を受く。

◎11月10日、日本の篤志家・神内良一氏の全額援助により日伯友好病院の増築落成式。

◎11月14日、紀宮様、リベルダーデご訪問。この日、憩いの園、カルモ公園、移民史料館訪問のあと、リベルダーデ商工会中心の歓迎に微笑まれた一日。

◎12月10日、リベルダーデ商工会は、10日よりリベルダーデ広場で歳末助けあい運動のため寄付運動を開始。

◎コロナ文芸賞『自然諷詠』（増田恆河）

1996年（平成8年）——◎1月、日伯修好100周年記念サンパウロ日系協力委員会は、日伯修好100周年事業144件の最終行事として、日本ブラジル大型経済会議（ブラジル開催）及びカルドーズ大統領の訪日を発表。

◎2月28日、ペルー藤森アルベルト大統領来聖、日系社会のリーダーと語る。

◎3月12日、カルドーズ大統領訪日。

◎3月20日、橘富士雄心不全にて永眠。（84歳）

## もうひとつの日本人街

日本人が移民としてブラジルに本格的に入って来たのは1908年（明治42年）6月18日、笠戸丸がサントス港に着いてからである。彼等のほとんど167家族が契約にしたがって農園労働者として奥地へ奥地へと入っていった。その中で皇国移民会社代理人、大工、鍛冶屋、洋裁師、自由移民、密航者等12人の日本人がサンパウロ市に残った、と、香山六郎『移民四十年史』には記されている。

それより2年も前に藤崎三郎助がサンパウロ市サンベント街58番地に「藤崎商会」を創業して、日本商品の売り込みをはかっていた。

当時のサンパウロ市は人口およそ35万人、石畳の上を馬車が走り、4階建てのビルも立っていた。

第2回目の移民船・旅順丸が、1910年6月28日にサントスへ入港した頃、サンパウロ市にはヴァガブンドと呼ばれる離農者も含めて、268人の日本人がいたといわれる。

コーヒー園や農園での厳しい労働のみに明け暮れる生活にたえかねて流れてくる者、または他の職業への道を探す者等が街へ出て来て、大工やペンキ屋の他に、多くは女中・下男等家庭労働者としてブラジル人の家に住み込んでいた。

農場生活者と都会生活者とその入れ代わりは、常に激しく、単

なる働くためだけの人間から、目的を持って生きようという移民者の心の動揺のその振幅がうかがわれる。

街の生活になじめなくて、すぐに農園へ帰る者もいたが、次第に工場労働者や商店に勤める者も出て、サンパウロ市に少しずつ日本人の姿が見られるようになった。

街へ出て来る人たちの最初の起点となったのは、藤崎商会がリベルダーデ区内のルア・サンパウロ20番(シニンブー街の角)に借りていた一軒屋で、藤崎商会がアグア・ブランカ方面へ転出した後に、そこを引き受けて残った炊事係りの夫婦が、ペンソンの真似事をはじめ、離農者達の合宿所のようになった。

他に同地区12番に大工、15番に鹿児島県人、エストダンテス街41番に福島県人等がいて、いずれも合宿所のような所になった。と、いつても半地下室や、小さな部屋に6人も8人もが寝泊まりしているのであった。

コンデ・デ・サルゼーダス街に日本人が住み始めたのは1912年頃からで、街は急な坂道をはさんで、右手の方に2、3軒の住宅、左手の方にだけぎっしりと住宅が並んで、坂の下に広い湿地があり、小川が流れていた。

坂の上を見上げると、街の名前となったサルゼーダス伯爵邸がお城のようにそびえていた。

日本人が集まり出したのは、このコンデ街には半地下室つきの家が多かったためもある。ふだん物置に使われているような半地下室は、家賃も驚くほど安かったのである。そこを、また一人で

はなくて何人かで借りるといふ生活。それでも街には何か希望があるように彼等、流れの日本人移民たちは考えたのだ。それと歩いて街の中心地にも行けたし、職場へも行けるといふ、利点があつた。

彼等はそこで味噌汁をつくり、イワシを焼いて食べた。一種独特な匂いにつつまれながら、彼等は次第に日本人街と呼ばれる小さな社会をつくつていったのである。職を世話する人も出てきて、旅館ができ、雑貨店ができ、豆腐屋もまんじゅう屋もできた。1915年には大正小学校という学校までもできたのであつた。すでに300人も日本人がいたのだ。

コンデ街は次第にサンパウロの日本人達の中心になりつつあつた。彼等は1916年頃にはコンデ街の坂下でクラブを作つて野球等も始めるようになった。1915年（大正4年）7月14日「在サンパウロ日本帝国総領事館」が、アウグスタ街297番地にできた。1918年には「カーザ・ミカド」「カーザ・トウキョウ」等エナメル塗りの家具を製造販売する日本人家具店も出てきた。日本移民が初めて街路にむかつて店を張り、商売を始めたのである。

1932年当時サンパウロ市内の日本人移民は約2000人に達していたといわれる。日本から直接サンパウロへ来る日本人もいたし、契約農民のなかにも契約を終えて、少しの金をにぎるとただちに職業をかえるために街へ出てくる者も多かつたのである。

この中心となっていたのはコンデ・デ・サルゼーダス街で、600人の日本人が住み着いていた。イルマン・シンプリシアーナ、タバチンゲラ、コンデ・ド・ピニヤール、コンセレイロ・フルタード、トーマス・デ・リマ（現ミット・ミズモト街）、エストダントেসにまで日本人達の街は広がっていった。

職業も多種多彩。輸出入業、食料品店、家具商、建築業、自動車運転手、医師、教育者、薬剤師、写真業、理髪業、クリーニング業等々61種。しかしそのほとんどが日本人相手であったといわれている。移民の歴史を書いた半田知雄はその中で“ともぐい時代”と記している。

この頃ブラジルの政治体制は急を告げていた。ブラジルは1930年革命としてのゼツリオ・バルガス臨時政府ができて新共和国として出発していた。1934年ゼツリオは臨時政府首班から正式な大統領となり、彼等の国家主義により移民制限法や外国語教育禁止令がつくられ、日本移民は多くの困難に直面しつつあった。1941年（昭和16年）12月8日太平洋戦争勃発。

1942年1月28日、在サンパウロ日本帝国総領事館閉館。日本・ブラジル間は国交断絶状態に入った。1942年9月6日、サンパウロ最大の日本人居住地コンデ・デ・サルゼーダス街一帯の日本人家族及び店舗に対して即日立ち退き令が発令された。

閉館する前の総領事館から各日本人商店及び主だった家庭へ「大国民として襟度を失わずに……がんばるよう」という文書が配られていたが、政府の代表がなくなり、日本語も話せず、コンデ

街の日本人達はただ黙したまま次第に散りじりになっていった。

参考文献 『移民四十年史』 香山六郎

『移民の生活の歴史』 半田知雄

『ブラジル日本移民80年史』 移民80年史編纂委員会

## 街の形成

東洋街は映画館から生まれた

1953年7月23日、並木が茂って“昼なお暗き”と形容されたリベルダーデ大通りの裏の住宅地に5階建てのビルがまったく唐突に出来上がった。

このビルの売り物は地階にある1500人収容出来る大きな映画館で、毎週日本製の映画を上映するという。2階以上にレストラン、ホール、ホテル。

建て主は田中義数。雑穀取引商として大成功した日本人であった。

こけらおとしの映画は長谷川一夫、京マチコ主演の大映映画『源氏物語』。

第2次世界大戦後の鬱屈した気持ちをかかえ娯楽に飢えていた日系人達は狂喜してその建物を取り巻いたという。「つねに延々長蛇の列」と当時を知る人は覚えている。

後に東洋街と総称されるリベルダーデ地区の発展の礎とされた映画館“シネ・ニテロイ”の鮮やかな出現であった。ほどなくパール木村、池田時計店、宮川有川商店、鐘ヶ江商会、カーザ・なにわ等が軒を並べはじめ向こう二軒両隣式に店は増えて行った。田中義数は1909年、愛媛県南山崎郡太平村に生まれて、1926年に両親、弟妹とともに渡伯。主としてコーヒー園で働き、35年に雑貨店の店主として方向転換している。38年農作物の仲買業。43年サンパウロに穀物取引業として本店を設ける等成功の道を確実に歩んでいた。

「サンパウロでも一番荒っぽいツバロン（大食い鮫）の街といわれたサンタ・ローザの下真ん中で毎日キッタハッタで叩き上げ」と、彼の友人・山本勝造はその頃の事を語っている。

大金はつかめても、バクチといわれるブラジル農業の、しかもその仲買人。「每晚、ふとんが濡れるほどの寝汗でした」と、つた子未亡人は語っている。

そして次に彼が選んだのが「映画」だった。黄金時代を迎えている日本映画は、その頃サンパウロに常設館がなく、流行らなくなったブラジルの映画館を借りての上映が時折行われているだけであった。それを見にいっく日本人達でフィーラが出来たという。「何よりも日系人に健全な楽しみを考えたのだと思います」と、つた子未亡人は今でも田中義数の気持ちを代弁する。そこから5階建てのビル構想までは一気呵成。



ニテイロ創立者の田中義数



当時のニテロイの賑わいぶり

映画館を中心に街が伸びていったのは、戦争中、強制立ち退き命令でさびれたコンデ街（コンデ・ド・ピニヤール、コンデ・デ・サルゼーダス、コンセレイロ・フルタード街の総称）に代わって次なる“日本人街”を欲していた日系人達すべての思いがあったからなのだろう。街は人の思いを背負って成長していく“生き物”なのだ。次第に発展していく街とそれに直面して起こる諸問題をかかえて、現在の商工会の前身である「商店街親睦の会」も彼が作った。

その後の20年。街の移り変わりの激しさは一通りではなかった。

シネ・ニテロイの30周年記念祝典の席上に創立者・田中義数の姿はすでになく（1979年1月永眠）、映画館も東西線高速道路のために取り壊され（1968年）、バロン・デ・イグアツペとアベニータ・リベルダーデの角に移っていた。親睦会を商工会に発展させ、その初代会長を務めた水本毅（故人）は、記念式典にしみじみとした一文を送った。

「この街が大きく東洋人街へと発展していくには、もちろん各商店主のたゆまざる努力があったのですが……しかし30年以前のシネ・ニテロイ開設がなかったら今日のリベルダーデ東洋街はありえなかったのではないかと思われます。その意味で田中義数さんはリベルダーデの生みの親ともいえるでしょう。中略。30年以前に在住日系人のための娯楽の殿堂をうち建てた田中義数さんの着眼力とその大きな業績は必ずやブラジル日系移民史に残るべき

ものと私は確信致します」

1988年12月30日、役目を終えたようにシネ・ニテロイはひっそりと閉館した。リベルダーデ街はその後、中国人や韓国人達の新しい経営者達を迎えてサンパウロの東洋街として、世界中に広まりつつある。

## もの哀しいといわれた頃



もの哀しいといわれた頃

日本から来ていた大企業の駐在員が、リベルダーデの呑み屋で酒の肴にするように「ブラジルの日本人街はもの哀しい」と蔑視の口調で言った頃があった。読売新聞の元社会部記者でノンフィクションものを書くH氏が、一九六〇年代の終わりごろ来伯して、それをきき、咎めた。

「なんという言い種か」と、日系社会側に立って、殴りかからんばかりに喰ってかかった。H氏は「移民たちは苦勞してここまで来たんだ。お前たちは何も知らないで」と言いたかったのだ。

さて、「もの哀しい」とは具体的にどういうことだったのか。①呑み屋にいる客もホステスも貧乏たらしい②飲食店も一般商店もアカ抜けしている感じからほど遠い③邦画常設館の新作の上映は日本よりも半年は遅れる。それを封切りといつてありがたがって観ている——など、挙げればきりがなが、要するに「後れていゝ」と言いたかったと思われる。

当時、日系の飲食店はブリガデイロ・ルイス・アントニオ通り界隈にも進出していたが、リベルダーデに最も集中していた。ホステスはまだ一世が現役でほとんど日系人。日本語だけで話が通じた。一世相手だと、黙って呑んでいてもよい。ここところが大事で、しゃべらなければおかしい客だ、といわれるのはある意味で苦痛だ。店側も客も日本人同士だと気兼ねがなかった。ホロ酔いで外に出ても、トロンバやもの盗りがいるわけではない。「治安が悪い」などという話は、このころきくことがなかった。新来の日本企業の駐在員に「もの哀しい」と言われたが、その頃の呑み屋がいちばん気持ちいが安らいで仕事の疲れが癒された。

六八年九月にガルボン・ブエノ街のシネ・ニテロイが取り壊されて、バロン・デ・イグアペ街に移った。その後、ガルボン・ブエノ街がざっくり掘られて高速道路ができて、まだ、気持ちいが安らぐ雰囲気はあった。七〇年代の半ばを過ぎると、飲食店も様

変わりする。一世も現役からどんどん退いていく。相応に年をとっていくのでいたしかたない事態であった。日本語だけを話すホステスの現役引退とカラオケの登場は、ぴったりではないが、時期が合っている。呑み屋は競うようにカラオケを入れ、客の接待役は日本語に不自由する人たちに代わった。カラオケの好きな人は別にして、こうした巷からこの頃遠ざかった人も多いのではないか。

商店は、といえば、中国系、韓国系が増えた。街の活気、色彩、商品、いずれも豊富にはなったといえよう。

「もの哀しい」と言った人たちが現在をみたら、なんとこきおろすか興味がある。

シネ・ニテロイの館主だった田中義数氏は、生前、いつも「わたしは娯楽の少ない日系人たちに娯楽をさし上げたい」と言った。それが、封切りが遅れる邦画だった。もちろん、業種違いの飲食店業には言及しなかったが、飲食店や邦画が駐在員たちにももの哀しく映った当時こそ、そこにどっぶり漬かっていた人たちにとって、かけがえのないよき時代だった。

日伯毎日新聞編集長

神田 大民

## リベルダーデのあの計画

### ――新聞人とリベルダーデ

外回り記者時代、町の話題を拾おうと、リベルダーデ商工会の水本毅全長を訪ねることがたびたび合った。

カーザ水本店舗奥の一室は、ガルボン担当記者の溜まり場でもあった。

大きな机の前に、水本さんは、次々と飛び込んで来る商工会関係の雑事（時には重要案件）に応じ、相談し合ったり指示を出したりする。その合間を縫って記者たちと語る。

ある日、いまは懐かしいあの雄大なアゴをつき出し、「こんな計画があるんだがね」と、水本さんは図面のようなものを見せながら説明し始めた。内容はほとんど忘れたが、計画というのはシヨツピングセンター建設構想であった。

あれはどういうプロジェクトであったか。興味もあつたので知人に頼み、リベルダーデのタウン誌など古い冊子を探してもらった。『りべるだあで』誌4号（1976年、大門企画発行）に、計画の概略が載っていた。同誌によれば、発案者は池崎商会の池崎博文さんであつたらしい。

池崎さんは胸中の大構想を水本会長に打ち明け、早速商工会幹部が集まって基礎研究会を開いた。「ガルボン・ブエノ街を分断す

る大阪橋とリベルダーデ橋間のミニヨコン（高速道路東西線）上部空間約7000平方メートルを利用、ここにショッピングセンターを建設しよう」という計画である。大きな夢を描いた幹部たちは、竹中工務店に技術面での研究を依頼した。



リベルダーデのあの計画

結果はまもなく出た。「せり出し工法」を採用すればミニヨコンの交通に支障をきたすことなく工事が進められ、14〜15階のビル建設は可能である、と同工務店技師の説明であった。沸き勇んだ商工会は、市に対してもこの空間の永久使用権交付について申請準備に入った。残る問題は巨額の建設資金。区内の商店だけではとてもまかなえない。「どこか大手の業者が建設、分譲か賃貸でわれわれに開放してくれたら」と、関係者の期待をこめた談話で『りべるだあで』誌はショッピングセンター建設構想記事を結んでいる。

あれから20年余。この構想は文字通りの空中楼阁物語で潰えた、と思っていた。ところが市会議員らの奔走で再浮上、マルフ市長も建設許可の署名を行ったという。総工費800万レアルを投じて二階建てのショッピングセンターを建設し、テナント制で希望者を募る計画だ。建設には日本の大手業者の資本が入りそうかどうか、政治的配慮も在るらしいなど、いろいろな噂が聞こえてくる。

だが、かんじんの地元商店会の反応はあまりうかがえない。往時の情熱は醒めたのだろうか。それとも水面下では活発な駆け引きがあるのだろうか。あるいは、外部から与えられたお仕着せの計画に戸惑っているのだろうか。いつも気になるリベルダーデ、最近はこのへんが気になる。

パウリスタ新聞社専務取締役

吉田尚則

## 四十年近い昔の話

三十七年前のこと、一九五九年のことである。ソ連が月にロケットを届けた。日本は皇太子殿下のご成婚(四月)に沸き、五千人の死者を出した伊勢湾台風(十月)におののいた。ブラジルではクビチェック政権の末期で次はジャニオかでわいわい。

聖市市議會議員選挙でカカレツコ君（動物園の河馬）が一位当選し、世界中の話題となった。コロニアは、作家石原慎太郎がスクーターでやって来て料亭「青柳」の女給がコーフンし（二月）岸信介首相の来伯（七月）でブン屋が走りまわった。

十月八日と九日にかけて、新来青年ヤクザたちと二世愚連隊の出入りがあり怪我人も出た。舞台のガルボン・ブエノ街は石畳で夜霧が這うと、大阪橋の所にあつたシネ・ニテロイの赤いネオンで濡れて光る。映画館は背広にネクタイでないと金モールの制服に追い出される、まことに規律正しい社交場であつた。



四十年近い昔の話

喧嘩のわけは、ヤクザ気取りの新来と街を取り仕切る二世たちとはことごとくにイガミ合い、小競り合いはよくあつたのだが、乱闘の引き金となつたのは、愚連隊のアイドル（当時はこんな言葉はなかつたが）だつた切符売り場の娘を、ヤクザ者がいとも手軽にモノにしたことから、純情な二世たちにはガマンならず新来

の横暴に対する報復であつた。コロニアは憂慮すべき事態の発生とし、識者の嘆きは一通りではなかつた。

喧嘩に敗れた二十数人の二世は一味七人の退治を宣言し、ガルボンを通る新来は誰彼の見境なく叩くという。

夜、ためしに通つてみた。数人に囲まれたが、ボスに会わせろと高飛車に出て、彼らの根城のバー「ニュー神戸」で会見した。当時の新聞には喧嘩両成敗で書きとばしたのが掲載されている。「どうせお前も新来だから奴らの肩を持つているんだろう」といきりたつのをなだめ「日本語が読めないなら読んでやる。だが、行数は数えられるだろう。同じ七十五行ずつ、仲良くぶつたたいているんだ」とワケのわからない啖呵をきつて数時間後、和解への約束をとりつけ、翌日はアパートに潜んでいた新来を探しだして説得し、平田進州議に持ち掛けてめでたくお手を拝借とした。

新来はブラジル生活に馴染めないまま、農場から逃げ出しバーテンとなり酒と女で憂さを晴らし、にわかヤクザを気取り埒もない日々を送っていた。二世はほとんどは、田舎から出て来てしがないペンソン生活、だが新来よりは戦前の日本人の心情を受け継いでいたようで、二世娘が「ガイジン」にからかわれたりすると身を挺して守るなど、日本人の血に誇りを持っていたとも言える言動を示す。だから、アプレゲールの新来の登場を母国喪失の屈折した光を照射されたような苛立ちで見つめていたのではないか。今の二、三世のようにブラジル化してはいなかつた。

シネ・ニテロイもなく当時の面影を伝える人も減つた今が蜃気

楼なのかとも思う。そしてあの乱闘事件は私の中で戦後コロニアの歴史の一コマとして羅列するだけでなく、都会が急速に変貌するように二世の心情の移り変わりをとらえる側面として考えたい気持ちに誘われる。

サンパウロ新聞社

編集長 中曽根武彦

## 一九七〇年頃からの思い出と演芸

リベルダーデ商工会会長・水本毅氏と共に「明るい街づくり」を目指し、愛され親しまれる商工会を創ろうとの合言葉で東洋祭りが発足し、毎年趣向をこらした日本郷土民謡踊りで、はや第27回を迎えた。最初は福島盆踊り、花笠音頭を主とし、リベルダーデ音頭、郷土民謡踊りで賑わい、リベルダーデ商店街も一段と明るい街となった。

この東洋祭りを地元から盛り上げようと言う意味で、商工会演芸部が誕生しました。

その頃私は花柳金竜先生の門下生であったため水本会長より演芸部長を指名されました。その折り知人より新潟県出身で、本場佐渡おけさ踊りの先生であった池芝流門下生の山崎幸子（名取緑衛）さんを紹介され、緑衛さんの佐渡おけさ踊りの美しさに魅了

され、早速指導をお願いしました。町内の伊藤記子さんも加わり熱意のこもった良き指導を得て、1年足らずの間に全員は100名を越え、第5回東洋祭りに優雅な佐渡おけさ団体踊りを披露し大変な好評を得たのです。以来コロニアの東洋祭りには演芸部の踊りは欠かせないものとなり、日伯間にも知られ、州政府、軍隊、市役所等主催の独立祭の行進や慈善ショー等に出演し、年間、50数回に及ぶ日伯交流親善公演を部員と共に努めて参りました。

温泉郷 テルマス・ポーターダ・ド・リオケンチの日本週間は1週間部員と共に踊り、又、リオ・デ・ジャネイロ市で催された「世界サミット・エコー92」に参加要請され数日公演を行いました。



一九七〇年頃からの思い出と演芸

その他サンタ・カクリーナ州のノーボ・ペトロポリス市のドイ

ツ人移民130年祭に招待され公演し好評を得て、民族舞踊を披露し、日独間の交流を深め合ったりもしました。

日本移民70年祭には、1200名、80年祭には、1500名の舞踊団を6か月間各クラスに分けて指導し、会場においては整列訓練を繰り返し、その成果が実り2回の祭典共盛大に催され大役を果たす事が出来たことは、忘れられない思い出です。

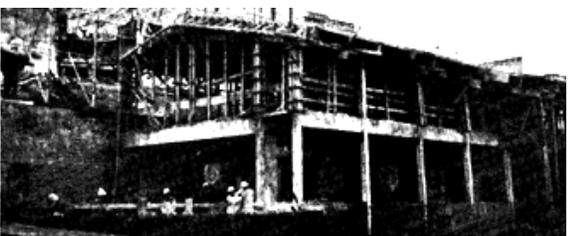
水本会長の最初の合言葉が実現したことを喜び、第25回の東洋祭りを節目に演芸部長を引退し、今後益々のリベルダーデ商工会と演芸部の発展を祈るものであります。

参考までに、山崎緑衛先生は8年指導し日本に帰国、伊藤記子さんは9年で故人となり、現在は、篠崎いちさんの指導を得ている。

元リベルダーデ商工会第一副会長

兼 演芸部長

池崎一人



建築中の東洋文化センター

水本毅さんのこと、

そしてガルボンブエノ街のこと

鈴木 一郎

(黒人宗教研究家・文学博士)

「鈴木さん」

しみじみと噛みしめるように、水本さんがいった。

水本さんが来日されると、いつもご案内する築地にある寿司屋のカウンターに、水本さんとわたしは腰を下ろしていた。

「こうして日本で、ブラジルのことを生半可ではなくて、よく知っている人と一緒に酒を呑めるっていうのはいいもんですなあ」

水本さんは酒盃を口にあてながら楽しげにいった。

それから僅か数年後に水本さんが亡くなられようとは、まったく思いもよらぬことであった。

そのときの水本さんはすこぶるお元気で、衰えの徴候さえも感じられなかった。

わたしたちの話題は、主にリベルダーデ大通りに新築される「東洋文化会館」の構想と完成後の運営についてだった。そもそも「東洋文化会館」の発案は、そのときから5、6年前、やはり水本さんとわたしがサンパウロで雑談しているとき、東洋街がバイロ・オリエンタルとして定着し、市の観光名所のひとつともなった現在、次は“日本の伝統文化”を紹介する殿堂をブラジルに建

設することではないだろうか。それにはブラジルにおける日系人の中心である東洋街こそふさわしいのではないか、ということといったことが端緒となったものである。

そのときは、水本さんも通り一遍の賛成しか出来なかったようだが、水本さんの卓抜した先見力と、東洋街を愛する熱情は、この異邦人の話を脳裏に育て上げ、やがて発酵させたに違いない。

そのような次第から、この構想については全面的に賛意を表し、早い段階から日本国内において寄附金集めに奔走し、わたし自身も分に応じた寄附を行ってきた。

だから話題は「東洋文化会館」設立後の運営などが中心となっていた。

水本さんは、いつも日本文化そのものを幅広くブラジル人に紹介したい、といていた。

生花、書、陶芸などの展示会を行いたい——やがては能から文楽までも紹介したいなあ……。

水本さんの夢は無限にひろがっていった。

わたしは花器を中心とした陶芸展に、生花を活性、さらにそのバックに書を据えた“花・書・陶”の世界展をはじめにやりましょうや、などと提案し

「いずれ是非やりましょう、その節は……」水本さんは、興奮を表情に見せていった。

だが、その水本毅さんがすでに早々と彼方の世界に旅立ってしまわれた。

わたしがガルボン・ブエノ街に足を踏み入れたのは、もう40年近い昔になる。回顧趣味は少しもないのだけれども、あの頃のブラジルは治安の心配もなく、人々は陽気でのんびりとしたものだった。

街のほぼ中央、現在の大阪橋のあたりに象徴ともいうべき“ニテロイ映画館”がでんとしてあり、2Fから5Fまでをホテルにしていた。

“ホテル・ニテロイ”のほかにも“池田ホテル”やらなにやらがあつたが、“日系パラセホテル”も“大阪プラザホテル”もその他のホテルもない当時は、なんといっても“ホテル・ニテロイ”が最高の人気を誇っていた。もつとも食事だけは“池田ホテル”の方が上だったように記憶している。

無論、当時は“カーザ水本”も“明石屋宝石店”も“池崎商店” “みつぼし宝石店”もなかった。

“カシンギ菓子店”はあつたかどうか。そのあたりに“石”という洒落た天ぷら屋があつて、わたしなどよく立ち寄つたものだ。また、“カーザなにわ”というミニ百貨店があつたのは、現在の“カーザ水本”のあたりだったろうか。

まあ、あまり街自体はきれいでもなく、洗練された感じもなかったが、なんとなく場末の浅草か、大阪の西成辺りに様子が似ていた。

しかし、故国日本への郷愁を求める人達にとっては、飢えを満足させてくれる貴重な街であつたことは間違いない。

この街に来れば、すし、天ぷら、すきやき、かつ井、とうふ、漬物からみそ汁までなんでもがあった。この街を行くだけとでも日本語で会話が出来た。

日本書籍店も日本語の新聞もあった。

当時の日本移民にとっては、涙の出るほどの有り難い街であったに違いない。

水本毅さんが何時この街と縁をもったのかは知らないが、まるでそれが運命のように水本さんはこの街にのめり込んでいった。その生涯をこの街の発展に尽くしたのである。

街を整備しはじめたのは、街の中心に高速道路が走るようになって“ホテル・ニテロイ”が映画館とともに潰され、大阪橋がかけられるようになって、のあたりからだろうか。

大鳥居を反対をもともせず建設し、日本庭園をつくり、七夕祭りや餅つき、揃いの浴衣を着せた男女を集めて踊りを披露したり、街灯を整備したり、日曜市を作って日系人を中心とした露店を並べ立てたり……、その卓抜した企画力と行動力によって、ガルボン・ブエノ街は、たちまち面目を一新して市の観光名所になっていった。

そして仕上げに「東洋文化会館」をつくり上げ、さらなる発展をと願ったあげくの死であった。

運命の神は、ときとして無惨なものであることを知らしめる。

水本毅——せめてもう10年生かしておきたい人物であった。

## リベルダーデの思い出

ブラジル日本文化協会会長 山内淳



リベルダーデの思い出について、書くようにとのことであるが、いざペンを採るとウロ覚えの記憶しか浮かんでこないので、文章が断片的になってしまった。

1946年頃のサンパウロは霧の街と称されて、リオの人たちから田舎街と言われていた時代があった。その頃、サントアマーロやペンニャへ行くには、路面電車が主な交通機関であった。とにかく畑や草原の間を、長いこと走らなければならないほど、へんぴであって人口も少なく、静かな町であった時代である。

1953年に、リベルダーデにシネテロイ（映画館）が出来てから、リベルダーデ地区は急速に変わって、次第に日系人の集まる繁華街となっていくのである。それ以前は、人通りも少ない閑静な住宅地であった。

私自身としては、相場美成先生の薫陶を受けていた学生寮を出

て、サンパウロ市内の各所を転々とした記憶があり、その中の一つに、リベルダーデ地区のトーマス・ゴンザガ街がある。1949〜50年にかけてのことで、間借り生活であった。現在その家はないが、街路に面した部屋で、確か丸山土産店の向かい側だったと思う。その近くには連れ込み宿などがあって、金のない学生たちは大いに悩まされたものである。

昔のサンパウロは、今と違って全くの安全都市で、夜遅く一人歩きをしても、不安や心配することが全く無かった。一度、最終電車に乗り遅れて、霧の中をピネイロス広場からトーマス・ゴンザガまで、独りで真夜中の街を歩いたことが記憶に残っている。当時は、シネマと言えば、セー広場か、サンベント街へ行ったもので、誰もが楽しい想いを胸に遅い夜の道を歩いて帰ったものである。

学生時代の私は、金も無く日本食の味もよく知らない田舎者だったので、どこの店に美味しい物があつたと言う記憶はないが、今に思えば日本食を出したペンソンが、リベルダーデからコンデ街にかけて幾つかあつたように思われる。

日本移民50年祭の頃、当時のサンパウロ日本文化協会がリベルダーデ広場にあつたので、この地区によく来るようになった。50年事業で、ブラジルの大学に在籍する日系学生および卒業生の数を調査する仕事を友達と手伝ったことがあって、さくらい食堂、シネニテロイとその食堂によく通つたものである。そして、田中数義氏、水本毅氏などに接触する機会を得て、いろいろと教え

られる事が多かった。

現在のセントロは、昔の繁華街の趣は無いが、サンパウロ市が再開発計画を持っているので、いつの日かリベルダーデ地区も整備されて、清潔なもつと美化された地域となる可能性が十分にあると期待される。

中国人・姜木坤 (CHIANG MU KUN)  
の場合



私は鹿児島大学の農獣医学部を卒業しています。

ブラジルに來たのも、日本の友人と「行ったら」と話し合ったのが動機となっているかもしれません。

1972年に妻と5人の子供と一緒にブラジルにやってきました。当時、すでに、リベルダーデには姉がいて、そこを最初に頼ったのです。

知り合った小野山三郎という日本人の勧めもあつて、ブラジリアで農業を3年やりましたが、子供の教育とかいろいろ考えて、

またサンパウロに出てきました。

リベルダーデで雑貨に店をもちました。売る品物のほとんどは、日本からの品で、とてもよく売れましたよ。

今、日本の商品は割高になっているので、仕入れのほとんど中国からの物が多いですね。

子供達の事ですが、皆それぞれブラジルの高等教育を受けて、うまくいったと思います。結局、全員にお店をもたせました。

ブラジルはよい国だと思っています。ブラジル人とはよい友達になれます。

台湾にはもう帰国ということはないでしょう。しかし私は今でも中国人ですね。食事も、それから正月も旧正月ですし。正月には家族が全員で集まって楽しみます。

あ、万里ね。あそこもリベルダーデには永くいるね。もうこの街のふるかぶのひとりじゃないのかな。

## 前史、リベルダーデ百年以前

オズヴァルド・パルメイラ・マイア氏（教会管理人）が語る。「当教会（サンタ・クルース・ドス・エンフォルカードス教会）が首吊りの教会と呼ばれるようになった由来は歴史の本に出ています。」

1821年、兵給滞納抗議の2兵士が処刑され、民衆が「リベルダーデ！」（自由を！）と叫び出したのが、リベルダーデという地名の由来であり、教会はその時の民衆の願いで建てられた礼拝堂がその前身であると書かれています。いずれにしても、今のメトロの駅とその周辺はブラジル拓殖初期からの極刑執行のための場所であり、教会は彼等の処刑された罪人たちの供養のための礼拝所であったのは間違いないと思われます。当教会はその後の建て直しで、今が3代目の教会となっています」

ネルソン・ロドリゲス氏（カーザ・ベーラ主人）が語る。

「リベルダーデという名の由来はもうひとつあったような気がしません。

1810年頃解放を求める奴隷たちが自由を求めて行き来した道と書いてある歴史書もあるようです。100年以上も前のことはどれが本当かそれは結局分からないのです。

私の店は処刑罪人たちの靈魂鎮魂のためのろうそくや花を売っていたのです。それまでは多分露店売りだったのでしょうが、1943年にはお店が出来ています。広場は処刑場廃止後材木市場に変わって、なにしろサンパウロが発展している時だったので、ぶんにぎやかだったようです。それから公園に変わりました。メトロ工事で公園がなくなりましたが……。

私が子供の頃はまだこの辺は街の外れで、シャカラ（農園）や有名なタバコ会社の重役の家や自動車王や当時の政治家たちの大

きな家がありました。

日本人たちが集まり出したのは、田舎から出てきた彼等がコンデ街やコンセレイロ・フルタード街に学校や新聞社や商店を作り、大きなコロニアを形成しつつあったのですが、今度の戦争（第二次世界大戦）で立ち退きを受けたりして、その終戦後以降ですね。リベルダーデに集まりだしてきたのは。

ホテルや映画館が出来て、住宅地から商業地区に変わりました」

### 「座談会」

「私、商工会で初代会長・水本毅さんと一緒に働かせていただき、今またその遺志を引き継いでやってきたつもりであります。何かと問題の多い近頃なのですが、この辺でちよつと苦を振り返り、今後の指針を少しでも見出せばと考えています。

それと日本からのお客様にお渡しする資料が何もありません。商工会誌をもういちど発刊して、それに応えるということもありますし、なによりこの街を、出来上がった本を観光局その他官庁に送って、もっとアピールしたい、と考えています。

今日、この街のいわば生え抜きの皆様にいらっしていただき、昔の事、今の事をぞんぶんに語っていただき、ぜひとも本にして

残しておきたいと思う所存です。不肖、私（尾西貞夫）が司会を務めさせていただきます。なにとぞよろしく」

司会者Ⅱ尾西貞夫（リベルダーデ商工会現会長、宝石店経営）

出席者Ⅱ檜垣 肇（画家）

やえ子（夫人）

ジコリオ新井（薬局店経営）

静枝（夫人）

カズコ佐藤（クリーニング店経営）

田中津田子（シネ・ニテロイ創立者、故・田中義数夫人）

水本すみ子（初代商工会会長・水本毅夫人）

外山三沙生（食料品店経営、俳誌「朝陰」「子雷」同人。

武古夫人）

## 戦後第一歩

尾西Ⅱでは始めさせていただきます。

皆さん、本当に昔からの方ばかりで、いわば地域開発の功労者といえるような存在の方々なのです。よくいわれる事ですが、リベルダーデは宿屋と食料品とクリーニングの店から始まったと。外山さんも西村さんもそうなのですが、やはりペンソンと食堂を始めた檜垣さんが一番古いでしょうか？

檜垣Ⅱそうかも知れません。私ら一 가족が最初かも知れません。私はペンソンと食堂を始めてからもがなり転々としましたね。ええ、みなこの近所なのですが。34年にコンデ・ド・ピニヤール街で「旭旅館」をやり、それからもう1が所あって、戦後にガルボン・ブエノ690番に、そして83番でボール・食堂を兼ねた宿屋をやっていたのです。今の大阪橋の真ん中辺りでしょうが。リベルダーデ大通りには赤い色の市電が走っているのんびりした時代だったのですよ。

家畜がトコトコ歩いているような所がまだありました。山羊の飼い主が乳を売っていて、家の窓越しにコップ渡して、それに乳しぼってもらって飲んだなんて事もあったんですよ。

やえ子Ⅱ転々としたのは戦争のせいもあつたんです。コンデ・ド・ピニヤールから移るのが大変だったです。

シンガポール陥落の時に日本人は危ないからといわれて立ち退いたのです。あそこに10年いて、中国の人もその頃少しづつはいたような気がします。

尾西Ⅱあ、上海飯店ね。

やえ子Ⅱ私たちが出てからですね。それからビラマリアーナへ移って、ガルボン・ブエノでも2回引越しましたかしら。私の忙しい性格のせいもあるのかしら。ほっほほほほ。

尾西Ⅱ静枝さんは、コンテ・ド・ピニヤールで生まれたんですか？  
静枝Ⅱそうです。

尾西Ⅱま、生粋のリベルダーデ育ちといっているいいでしょうが？

静枝Ⅱそうですね。

佐藤Ⅱ私もリベルダーデ育ちです。

尾西Ⅱあ、そうです。1950年頃今の私の店（明石屋）辺りだと聞いています。

檜垣Ⅱドライクリーニングの店と、それからその機械の販売と修理をやってたんです。

尾西Ⅱ子供の頃はどんな事をして遊んでましたか？

佐藤Ⅱルアでかけっこ。今のメトロの駅がちっちゃい山になっていて、そこから裸足で駆け降りたり。石蹴りもしたかも知れない。少し年をとってのど自慢大会。

静枝Ⅱ私はガルボン・プエノ通りで陣取りやったの覚えています。

尾西Ⅱ外山さんは食料品の店をかなり古くからやってらっしゃいましたよね。

外山Ⅱ1959年からです。初め、今のニッケイの前辺りに鈴の家という料亭と旅館業。それから食料品店。豆腐、納豆等日本食品を商って、もう30年以上になったかしら。

尾西Ⅱ当時のお話を少し。

やえ子Ⅱメトロの駅のある所は緑の小高い広場で有名な政治家テイオゴの像がありましたね。

檜垣Ⅱ文化協会の辺りから広場に向かって街路樹がありましたね。市電が通っていたり。そうです、今でも掘れば線路はそのまま出てきますでしょう。

尾西Ⅱ市電には何人くらい乗れました？

檜垣Ⅱ45人以上は乗っていたでしょう。赤い色が塗ってあってトコトコっていう感じで走るんです。

やえ子Ⅱそうですね。あれチンチンってね、音出して。

外山Ⅱルア・ダ・グロリア、リベルダーデ、ガルボン・ブエノかな。メトロや道路の工事でなくなっちゃったんですね。そのまんま上に土がぶせただけで、掘れば出てきますね。今のニッケイ・パラセ辺りに小さい家がいっぱいあってサンバも聞こえたりしていましたよ。

佐藤Ⅱ私、子供の頃、よくサンバを見た。

やえ子Ⅱ今みたいにサンボードロモがなくて、カルナバルはルア（道）でしたよね。

尾西Ⅱ少しずつ日本人たちは集まりだしたんでしょうが、なんといってもシネ・ニテロイの誕生が街を大きく変えたんでしょう？

田中・水本Ⅱでしょうねえ。（同時に）

静枝Ⅱ私ん家のベンソンに住んで学校に通った人いっぱいいましたよ。

後でずいぶん有名な政治家になった人もいたんですよ。

尾西Ⅱ私も知ってます。ここ（リベルダーデ）通った事ありますもの。移住してきて奥へ入るまで2週間いましたもの。ああ、ここがブラジルの日本人の集まる所かと思いました。

日本人とても多かったですよ。それでまず田中さんのシネ・ニテロイですね。どういうきっかけだったんですか？

田中Ⅱ待って、待って。思い出してきましたわよ。うち（主人・

田中義数)のはフェジヨン(豆)とミーリヨ(とうもろこし)等穀物の仲買人をやってたんですが、それはもう頭の痛くなるような値交渉の連続で、それに飽きたんでしようか。突然映画館をやるといいだしたんです。今の大阪橋の真ん中辺りに“日東の勇士”(ニテロイ)と名付けて映画館、ホテル、貸しホール等の5階建てのビルを作ったんです。53年7月、こけら落としが大映映画の源氏物語だったと思いますよ。

水本||それからこの街は住宅街から商店街にみるみる変わりましたんでしよう。

外山||そうです。変わりましたねえ。

檜垣||田中さん、ずいぶん儲けたんですよ。あの当時あんな大きな事考える人は他にいなかった。

外山||ホテルがあつて、貸しホールがあつてねえ。

佐藤||私、あそこのホールでサンバ習った。

静枝||ああ、カルナバルの時よねえ。

尾西||田中さんが映画始めて、それが大当たりして、いちじは4軒もの映画館があつたそうですね。

佐藤||サンジョアキンに日活があつた。

外山||今の愛知県人会の所がシネ日本。

尾西||水本さんも映画をやりましたよね。

水本||そう。うちは長い間映画のフィルムの輸入をやっていたのです。それからいろいろ場所を借り、最後にシネ松竹を持ちました。ゴメス街ですね。1987年7月に閉館するまで。



シネ松竹の招待女優豪華メンバー

尾西 水本さんはピネイロスにカーザ水本のお店も持っていますね。

水本 そうですね。ほとんどの日本品を扱っていました。それからガルボン・ブエノにも62年にお店を持ちました。

尾西 それからじよじよに現在のリベルダーデに変わっていくわけなんです、エピソードありません？

檜垣 奥地の方から3日ばかりで出てきて映画のハシゴして、巻き寿司やうどん食べて、また3日かかって帰っていく日本人もいっぱいいましたね。

やえ子Ⅱ公園の広場で長い時間ただ話をしている恋人同士もいたですよ。

外山Ⅱほんとに。

水本Ⅱそれから運動会を大きくやったのを覚えています。

外山Ⅱ野球、サッカーね。

尾西Ⅱ親睦会（商工会の前身）の主催ですよね。

佐藤Ⅱのど自慢やった。日曜日よ。

尾西Ⅱ歌ったんですが。

佐藤Ⅱ見るだけ。

尾西Ⅱだいたい映画代というのはいくらぐらいだったのですか？  
やえ子Ⅱ10ミル。あの当時のお食事1回分でしょうかしら。

ぐれん隊、文協、商工会

尾西Ⅱあまり話したくないのですが、ぐれん隊の横行というのがありましたね。

外山Ⅱそうそう。バーやキャバレーなんかも出来てきてねえ。

新井Ⅱ私はまあ、コレ（静枝夫人）と結婚した頃でした。

檜垣Ⅱ家の娘婿なんです。

新井Ⅱ私はパウリスタ産業組合を作ってその仕事をしておりました。組合員の生産物をカンタレーラ中央メルカードに入れて販売する仕事で、妻がガルボン・ブエノ1113（ニテロイの前）に薬局開いて。

静枝Ⅱよく喧嘩は見ました。

新井Ⅱ戦後移民の青年が大勢の2世に追いかけられていたり、逆の事もありましたと思います。

尾西Ⅱどんな気がしました？

新井Ⅱそりや嫌でしたよ。日本人のくせになんだと思いましたよ。

外山Ⅱ勝ち組の事もありましたし、結局まだ戦争が影を引きずっていたんです。みんなが落ち着いていなかった。

新井Ⅱ今から考えれば、ぐれん隊などと呼ぶほどの事はなかったと思うのですが、当時はやはり怖かったです。そういう時代が何年かあって、街を明るくしようというので、今の商工会の前身、親睦会が生まれたんです。

水本Ⅱそうそう、田中さんが中心になって、田中さんが初代の会長さんですね。

田中Ⅱそうです。すぐ運動会やったんです。

尾西Ⅱ文協もその頃ですか？

外山Ⅱ1964年に文化センターが出来て、68年にサンパウロ日本文化協会から、日本文化協会と改名して。

田中Ⅱ親睦会と文協、この二つが大きかったですね。

水本Ⅱこの二つを中心に日本人がほんとうにまとまりだしたんですね。

佐藤Ⅱ日本から芸能人がいっぱい来た。

外山Ⅱいっぱい。勝太郎も市丸も音丸も。

水本Ⅱ長谷川一夫、森繁久弥、伴淳三郎。たいがいの人来ていま

す。

新井Ⅱ 1967年に今上陛下が皇太子でいらつしやっています。水本Ⅱ 県連もその頃から本格的になりましたね。

新井Ⅱ 保安対策委員会も69年に11師団のラーラ大佐との話し合いが始まりです。1985年に法令が出て正式に発足しました。初代会長が山内淳さん、現会長が池崎博文さんです。私はそこで調停委員をやっています。

尾西Ⅱ そこまでが街形成の第一期と呼んでいいでしょうか？

新井Ⅱ そうですね。その後、地下鉄工事やら高速道路工事やらで大変でした。

田中Ⅱ ニテロイも移転を強制されるし。

檜垣Ⅱ メトロ工事の時は人骨がゴロゴロ出てきましたね。

赤い鳥居、お祭り、東洋街

尾西Ⅱ 最初がメトロですか？

新井Ⅱ あれで公園がこわされて、立ち退き店も出ました。

尾西Ⅱ すぐに1968年に高速道路東西線の建設が始まりますよね。

田中Ⅱ ニテロイはちょうど大阪橋の真ん中にあつたでしょ。主人は市役所とずいぶん折衝したんですが、だめでした。それでバロン・デ・イグアベに代替地をもらって。

外山Ⅱ みんなニテロイがなくなるというのでいちじはがっかりし

ました。

水本Ⅱ道路工事は結局街を二分してしまいましたものね。大阪橋の所を深く深く掘ってしまつて。そこに出来た橋が大阪橋です。檜垣Ⅱ天気の日にはひどい埃で、雨が降ると今度はドロドロ。何度逃げ出そうかと思ひましたか。2年くらいは続きました。静枝Ⅱそのまま閉店してよそへ移つた人も多かつたでしょ。

尾西Ⅱあの橋の赤い鳥居を作つたの水本さんでした？

水本Ⅱ街が分散してしまふというので、池崎さん等と一緒に考えたんですね。設計はジュンコの佐川さんにお頼みして。74年1月が完成だと思ひます。

尾西Ⅱ赤い鳥居、すずらん灯、巴模様の歩道、日本庭園、みんなあの頃ですか。

水本Ⅱそうです。商店の親睦会というのではだめで、そこから商工会として正式に登録。当時の市長のミザール・コラスオノさんに頼みました。

ちようどサンパウロの街作りともあいまつて、全部作つて、東洋街として再出発のもととなりました。

尾西Ⅱ水本さん、ずいぶん頑張りましたんものね。どんな人でした？

やえ子Ⅱ決めた事はバリバリやる人でした。

新井Ⅱリーダー・シッフのある人でしたね。

水本Ⅱ家族的には、ま、普通の人でしたよ。あまり怒る事もしませんでした。

尾西Ⅱそれからリベルダーデはお店も増えるいっぽうで、サンパウロというよりブラジル日系の心のふるさとみたいな感じになりました。鳥居は今やシンボルとしてテレビにも出てきますね。

田中Ⅱお祭りもいっぱいあったね。

水本Ⅱ東洋祭りには、阿波踊り、花笠音頭、鳥取県の傘踊り、福岡の博多踊り、長崎の皿踊り、皆様いろいろな県から来ていますから、ほんとうに多彩なお国ぶりが見られました。

佐藤Ⅱ今は娯楽が増えました。カラオケもありますし。

新井Ⅱ東洋会館の方は？

尾西Ⅱあれは大変だったです。1988年に起工式があったんですが、まだ工事の途中に水本さんがおたおれになって、実務のほうはほとんど私と南銀のルイス江口さんでやりました。

水本Ⅱご苦労さまでした。

尾西Ⅱ韓国や中国やブラジル人達の進出も多くなって、今やほんとうに混沌としたりベルダーデを形成しておりますね。

外山Ⅱほんとにねえ。東洋街ですねえ。

新井Ⅱいちじは日本へ行く人も多くて寂しい感じの時もありました。が。

やえ子Ⅱ今は活気がありますね。

水本Ⅱお客様もずいぶん外人の方が増えています。

外山Ⅱ外人の人がお寿司、お饅頭、のり、お刺身を買いにきますよ。

水本Ⅱレストランテも多いしね。

尾西Ⅱ世界的に日本食ブームです。

佐藤Ⅱ日本へ働きに行った人がふえて、それで味を覚えてくるんです。

これからのリベルダーデ

尾西Ⅱこの街へ来てくださるお客様もいちじよりはずつと増えて、この先もつとつと来ていただきたいと思います。しかしここ何年間かは日本人のお店へっているんです。

佐藤Ⅱそう、フェイラでもお店やる日本人が少なくなっていますね。



佐藤Ⅱ若い日系人がへっています。みんな、ドンドン日本へ行ってしまいます。

新井Ⅱ残念な気もしますね。

水本Ⅱお金の額が違いますよね。日本へ何年か行ってそのお金でお店買えないですよ。

尾西Ⅱ中国の人も韓国の人もお金持っていますよう。

外山Ⅱ商品も中国、韓国の製品がどんどん入ってきて、日本のものより安いんです。ちよつと空き家だと思つと、もう韓国か中国の人が入っています。それが早いですよ。

水本Ⅱみんなファミリアでお店やりますものね。10時、11時まで頑張っていますよ。

尾西Ⅱ中国の人も韓国の人もブラジルで稼いでアメリカに行くという目的であつたらしいんですけど、最近はまだブラジルへ戻ってきている人も増えているんですね。アメリカは税金がとてもきついらしいです。

外山Ⅱやはりブラジルがいいらしいです。だから、今、ガルボン・ブエノに集中しています。

水本Ⅱ日本人のお店がもつと増えて欲しいですね。

外山Ⅱオリエントタルだからみんなが仲良くしていければ、それが一番よい事だとは思つています。

水本Ⅱそうかといつてこういう事はセンチメントに考えてばかりはいられないし。

尾西Ⅱ私は現商工会の会長としてほんとうに頭の痛くなるような

問題が山積していて。

水本Ⅱやはり、日本へ働きに行くような若い人に期待するしかないのではないでしょうか。私の知ってる人で、日本から帰ってすぐにお豆腐作り始めた人がいるんですよ。

尾西Ⅱそうですね。やはり日本へ行って、帰ってきた若い人達が何を考えるかですね。それと今お店を持っている二世の人の考え方ですね。リベルダーデの問題ではなく、ブラジル日系社会の問題でもあります。それはみんなひとりひとり考えなければならぬ。宿題おわされたような気持ちですがこのうえはいっこくも早く本を出して、皆様の期待にそいたいと思います。

本日はありがとうございました。

リベルダーデ商工会現役員

会長 尾西 貞夫

第一副会長 尾上 一男

第二副会長 矢沢 年数

第三副会長 水本パウロ

書記 平井 達夫

会計 上山ホベルト

理事 仲本 淳一

理事 藤本 哲也

理事 脇山パウロ

理事 尾上 進

理事 大浦パウロ

理事 根元 三郎

理事 池田アデリア

理事 今井ノリオ

管理部長 新井ジュリオ

演芸部長 高橋 五男

体操部長 細川 照男

カラオケ部長 池崎 一人

フェア部長 浜崎 雄一

会計監査 八幡 八郎

会計監査 堀江 八郎

会計監査 木村 富夫

相談役 網野弥太郎

相談役 池崎 博文

相談役 池崎 一人

東洋市役員

会長 尾西 貞夫（商工会）

隅本 開（フェア）

役員 浜崎 雄一（商工会）

ジュリオ 新井（商工会）

パウロ水本（商工会）

ロベルト 西村（フェイラ）

ジョランダ隅本（フェイラ）

クラウジオ・ベント（フェイラ）

## 年間行事

花祭り：……………4月初旬

七夕祭り：……………7月中旬

東洋祭り：……………12月初旬

餅つき：……………12月31日

ラジオ体操：……………毎日

東洋市：……………毎日曜日

・96年度行事として、母の日、父の日、子供の日が計画されています。

## 南米銀行ガルボン・ブエノ歴代支店長

ヨシオ・チカザワ／コオシ・コバヤシ／ヒサオ・フナベ／オサム・マツオ／リョージ・コジマ／ジョージ・ミズノ／ジョン・アキラ・エバラ／カルロス・カズオ・タカハシ／ルイス・フタカ・エグチ

／クリネウ・ヨシハル・イイダ／ロベルト・イサム・カミヤマ(現)

ブラデスコ・ガルボン・ブエノ支店長

レジナルド・サイア／フェルナンド・ピネイロ・マツシヤード／  
ジヨゼ・ザナルデイ／オズワルド・オリベイラ／クラウジオ・ロ  
ンドバルジ／ルイス・ゴンザーガ・ロツシ／フランシスコ・O・  
M・マールウ／ダニエル・ド・N・ポツサス／ジュリオ・タカノ・  
ダテ／セバスチアン・グレゴリオ・ヌネス／オズワルド・T・デ・  
カルパリオ／ジヨアン・ナザレ・モレイラ／セバスチオン・カル  
ロス・P・ダ・シルバ(現)

1991年下半期からの主な商工会の活動。

(報告：会長・尾西貞夫)

◎10月4日、リベルダーデ商工会は日系4団体へ3000ドル  
寄付。寄贈した3000ドルは同商工会が催した水前寺清子特別  
公演で得た純益の一部。

◎12月14日、東洋祭り。エルンジーナ市長を迎える。中国・  
韓国初参加。

1992年(平成4年)

◎5月5日（3月3日の雛祭り、5月5日の子供の日はサンパウロ市の公式行事に決まる）商工会では大阪橋で鯉幟を揚げ、祝う。

◎7月28日、リベルダーデ商工会（尾西貞夫全長）と浅草商店連合会（飯村茂理事長）の姉妹提携調印式が浅草公民館で行われる。

1993年（平成5年）

◎5月11日サンパウロ市生食規制法発効により、すし・さしみの販売禁止。リベルダーデ商工会は市配給局内海局長と会見、通達取り消しを要求。

◎5月19日、コレラ騒動による日本レストランの信用回復と日本料理普及のためリベルダーデ商工会会長尾西貞夫の斡旋により料理店主達の会合がもたれ、この日総会により日本料理店協会として正式に発足。会長・池田優、第一副会長・天野武士、第二副会長・氏家保一、第三副会長・水村博親。

◎5月26日、リベルダーデ商工会の要請により、大鳥居、鈴蘭灯、大阪橋改修工事始まる。

1994年（平成6年）

◎1月、地下鉄リベルダーデ駅に生け花を飾る。

◎6月29日、リベルダーデ商工会、サンパウロ日本文化協会共催の立川談志落語会が、文協大講堂で開催。

（尾西商工会会長の寂しいお年寄りに笑いをがテーマ）

◎リベルダーデ治安対策会議（池崎博文会長）第11連警代表を  
迎え、交番に警官常駐を要請。

◎3月16日、リベルダーデ商工会ごみ不法投棄取締強化。罰金  
請求への動き。

◎7月20日、1905年12月20日に聖市リベルダーデ区が  
制定され、この日を記念してサンパウロ市は12月20日をリベ  
ルダーデの日と、この日決定。

◎8月10日、リベルダーデ商工会は、商工会が集めた寄付目録  
を「サンパウロ州連帯の社会」基金のリラ・コーバス会長に手渡  
す。

◎8月24日、聖市議会リベルダーデ整備案可決。

◎10月12日、子供の日“ミニ運動会”をリベルダーデ広  
場で開催。

◎11月14日、紀宮様、リベルダーデご訪問。この日、憩いの  
園、カルモ公園、移民史料館訪問のあと、リベルダーデ商工会中  
心の歓迎に微笑まれた一日。

リベルダーデ

発行

リベルダーデ商工会事務所

A s s o c i a ç a o C u l t u r a l e A s s i s  
t e n c i a l d a L i b e r d a d e

東洋文化会館

TOYO BUNKA KAIKAN

Av. Liberdade, 365 São Paulo

Tel / Fax : 278-5090

※東洋会館御利用のお問い合わせはお電話下さい。